Nikon

ニコンデジタルカメラ

COOLPIX P5100

クールピクス P5100

使用説明書

Jp

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
警告	**指定の電池または専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
使用注意	**飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。 病院で使う際も、病院の指示に従ってください。
電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと** 電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因となることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL5は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池で、COOLPIX P5100に対応しています。EN-EL5に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止

分解したり、修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出した時は、露出部に手を触れないこと
感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。

プラグを抜く

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池プラグを抜く際、やけどに充分注意してください。
電池プラグを抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと
発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと
プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると、火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

電源コードを傷つけたり、加工したりしないこと
また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと
電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電の原因となります。

⚠注意
（バッテリーチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

放置禁止

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと
ケガの原因になることがあります。

禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P5100をお買い上げくださいまして、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。	関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録が行えます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプター、スピードライトなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ionリチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードすることができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

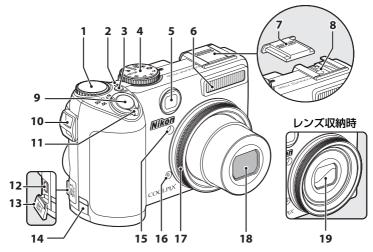
●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

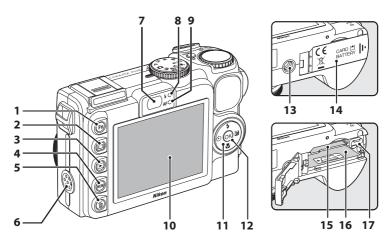
メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（🔀122）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。

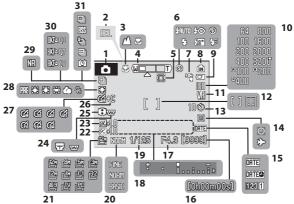
使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

各部の名称

カメラ本体

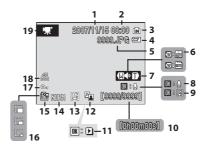
1	コマンドダイヤル 9
2	電源ランプ ....17、130
3	電源スイッチ 17
4	モードダイヤル 8
5	ファインダー 24
6	内蔵フラッシュ 30
7	アクセサリーシューカバー 139
8	アクセサリーシュー 139
9	シャッターボタン 26
10	ストラップ取り付け部（2ヶ所）
11	ズームレバー ....25 W： 広角ズーム ....25 T： 望遠ズーム ....25 サムネイル表示 ....51 拡大 ....53 ヘルプ 11
12	ケーブル接続端子 ......76、78、82
13	端子カバー ....76、78、82
14	パワーコネクターカバー 136
15	セルフタイマーランプ ... 32、144 AF補助光 ....27、129、144
16	マイク ....59、64、71
17	レンズリング 138
18	レンズ ....142、155
19	レンズバリアー

1	Fn（ファンクション）ボタン ....9、132
2	▯（モニター）ボタン 12
3	▶（再生）ボタン 28
4	MENU（メニュー）ボタン ....11、65、90、115
5	🗑（削除）ボタン ....28、29、59、70、74
6	スピーカー ....59、70、73
7	ファインダー 24
8	フラッシュランプ 31
9	AFランプ 26
10	液晶モニター ....6、12、23
11	マルチセレクター 10
12	OK（決定）ボタン 10
13	三脚ネジ穴
14	バッテリー / SDカードカバー ....16、20
15	SDカードスロット 20
16	バッテリー室 16
17	バッテリーロックレバー ....16、17

液晶モニターの表示内容

説明のため、すべての表示を点灯させています。

撮影時

1	撮影モード※ ....22、35、43、44、45、64	16	記録可能コマ数（静止画）.........22 記録可能時間（動画）.................64
2	AE-L表示 42	17	絞り値 45
3	フォーカスモード 33	18	露出インジケーター 49
4	ズーム表示 25	19	シャッタースピード 45
5	電子ズーム状態表示 25	20	画質 91
6	フラッシュモード 30	21	画像サイズ 92
7	スピードライト表示 139	22	露出補正値 34
8	内蔵メモリー表示 23	23	調光補正 108
9	バッテリーチェック 22	24	コンバーター 110
10	ISO感度表示 ....31、99	25	ゆがみ補正 112
11	手ブレ補正表示 ....23、128	26	カラー同時記録 96
12	AFエリア ....26、105 AFエリア（顔認識時）.............105	27	仕上がり設定 94
13	セルフタイマー 32	28	ホワイトバランス 97
14	時計マーク ....146 ワールドタイム 123	29	ノイズ低減 109
15	デート写し込み 126	30	ブラケティング 104
		31	連写モード 101

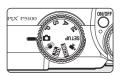
※ 撮影モードによって表示されるアイコンが異なります。

再生時

1	撮影日 18	10	画像の番号/全画像数 .... 28 動画の再生時間 70
2	撮影時刻 18	11	動画再生ガイド 70
3	内蔵メモリー表示 28	12	D-ライティング済み表示 55
4	バッテリーチェック 22	13	音声メモ表示 59
5	ファイル名 140	14	画質 91
6	カレンダー / 撮影日一覧ガイド ....60、61	15	画像サイズ 92
7	音量表示 ....59、70	16	スモールピクチャー 57
8	音声メモガイド（録音）.......... 59	17	プロテクト表示 118
9	音声メモガイド（再生）.......... 59	18	プリント指定表示 87
		19	動画モード※ 70

※　撮影時の動画設定によって、表示されるアイコンが異なります。

主なボタン操作とヘルプの使い方

モードダイヤル

モードダイヤルを回して、使用するモードのアイコン（図記号）を指標に合わせます。

（オート撮影）モード（22）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

ブレ軽減モード（43）

［手ブレ補正］（128）と［BSS］（101）を使って手ブレや被写体ブレの影響を軽減します。明るい屋外で、ズームを望遠側にした撮影に適しています。

高感度モード（44）

高感度で撮影することで、薄暗いシーンでも手ブレや被写体ブレの影響を軽減し、その場の雰囲気を活かした撮影ができます。

露出モードP、S、A、M（45）

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

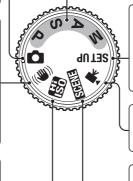
SET UP（セットアップ）モード（120）

セットアップメニューを表示します。日時や画面の明るさなどを設定します。

（動画）モード（64）

動画を撮影できます。

SCENE（シーン）モード（35）

撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。音声のみを録音する音声レコード機能も選べます。

コマンドダイヤルとFn（ファンクション）ボタン

コマンドダイヤルを回したり、**Fn**（ファンクション）ボタンと組み合わせて使うことで、すばやくモードやメニューを選んだり、機能を設定したりできます。

撮影時に使う

状態	操作	内容	👁
モードダイヤルが**P**のとき	⟳	プログラムシフト量の変更	46
モードダイヤルが**S**のとき	⟳	シャッタースピードの変更	47
モードダイヤルが**A**のとき	⟳	絞り値の変更	48
モードダイヤルが**M**のとき	⟳	シャッタースピードまたは絞り値の変更（変更する項目はマルチセレクターの▶を押して切り換えます。）	49
モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき	**Fn**＋⟳	［FUNCボタン設定］に設定されている機能の値を変更（初期設定ではISO感度の設定を変更できます。）	132
モードダイヤルが SCENE のとき	**Fn**＋⟳	シーンモードの選択	35
モードダイヤルが 🎥 のとき	**Fn**＋⟳	動画の種類の選択	65

再生時に使う

状態	操作	内容	👁
再生モード	**Fn**＋⟳	カレンダーモード、撮影日一覧モードへの切り換え	60、61
1コマ表示	⟳	サムネイルロータリー表示への切り換え	52
サムネイル表示またはサムネイルロータリー表示	⟳	画像の選択	51、52
拡大表示	⟳	拡大倍率の変更	53
動画、音声データ再生中	⟳	早送り/巻き戻し	70、74

はじめに

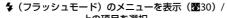
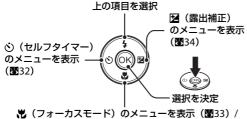
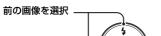
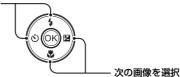
マルチセレクター

モードやメニューを選んで決定するときは、マルチセレクターを使います。

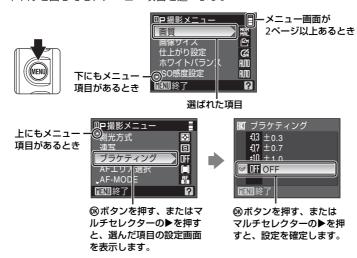
撮影時に使う

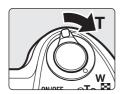
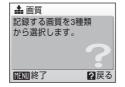
再生時に使う

メニュー画面で使う

マルチセレクターの使い方の記載について

マルチセレクターは複数の操作が可能なため、各操作説明では具体的に記載していません。操作手順で注意が必要な場合は、上、下、左、右の各操作部を▲、▼、◀、▶と表記しています。

MENU（メニュー）ボタン

MENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューを表示します。各メニュー項目を設定するには、マルチセレクターを使います（10）。コマンドダイヤルを回しても、メニュー項目を選べます。

ヘルプの表示方法

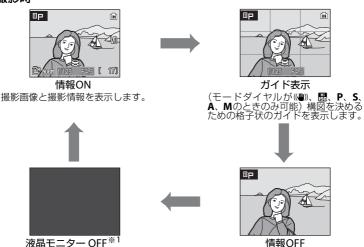
メニュー画面の下に?が表示されているときにズームレバーを**T**（?）方向に回すと、選んでいる項目の説明（ヘルプ）を表示できます。
メニュー画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（?）方向に回します。

（モニター）ボタン

（モニター）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

ガイド表示
（モードダイヤルが、、**P**、**S**、**A**、**M**のときのみ可能）構図を決めるための格子状のガイドを表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

液晶モニター OFF※1
（モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のときのみ可能）
液晶モニターを消灯します。

再生時

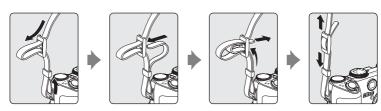
画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

撮影情報ON
（動画は除く）
ヒストグラム※2と撮影情報※3を表示します。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

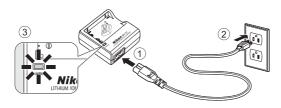
※1 ピントが合わず、AFランプが点灯しないときはシャッターがきれません。
※2 ヒストグラムとは、明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。
※3 ここで表示される撮影情報は、フォルダ名、ファイル名、露出モード **P**、**S**、**A**、**M**、シャッタースピード、絞り値、露出補正値、ISO感度です。露出モードは、、、、SCENE、**P**のときには**P**と表示されます。

ストラップの取り付け方

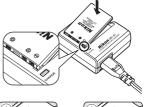
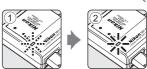
次のようにストラップをカメラに取り付けます（2カ所）。

バッテリーを充電する

ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池）を、付属のバッテリーチャージャー MH-61（充電器）で充電してください。

1 バッテリーチャージャーの電源コードを接続する

- 電源コードのACプラグをACプラグ差し込み口に（①）、電源プラグをコンセントに差し込みます（②）。CHARGEランプが点灯して、通電中であることをお知らせします（③）。

2 リチャージャブルバッテリーを充電する

- 端子カバーを外して、バッテリーの突起部をバッテリーチャージャーの凹部に合わせてセットします。

- CHARGEランプが点滅し（①）、充電が始まります。CHARGEランプが点灯したら（②）、充電完了です。
- 残量がないバッテリーの場合、充電時間は約2時間です。

CHARGE ランプの状態と意味は次のとおりです。

CHARGEランプ	意味
点滅	バッテリーは充電中です。
点灯	バッテリーの充電が完了しました。
速い点滅	• 使用可能な温度ではありません。室温（5 ～ 35 ℃）で充電してお使いください。 • バッテリーの異常です。ただちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーはご購入店やニコンサービス機関にお持ちください。

3 充電が完了したら、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

バッテリーチャージャーについてのご注意

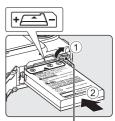
- 付属のバッテリーチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5以外には使用できません。
- バッテリーチャージャーをお使いになるときは、必ず「安全上のご注意」の「警告」（v）、「注意」（v）の注意事項をお守りください。
- バッテリーチャージャーの電源コードは、MH-61以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC100V対応）です。日本国外でお使いになるには、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
  また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/でもお求めいただけます。

バッテリーを入れる

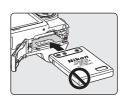
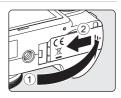
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー（リチウムイオン充電池）EN-EL5をカメラに入れます。ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（14）。

1 バッテリー /SDカードカバーを開ける

2 バッテリーを奥まで差し込む

- バッテリー室内の表示を見ながら、＋と－を正しい向きで入れてください。
- バッテリー側面でオレンジ色のバッテリーロックレバーを押し上げながら①、奥まで差し込んでください②。バッテリーロックレバーが下がり、バッテリーが固定されます。

バッテリーロック
レバー

逆挿入注意

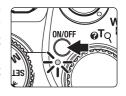
バッテリーの向きを間違えると、カメラが破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプが消灯していることを確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し上げると①、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜いてください②。

- カメラを使った直後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

電源をON/OFFするには

電源スイッチを押すと、電源ランプ（緑色）と液晶モニターが点灯します。電源ランプ（緑色）が点灯しているときに、電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（28）。

バッテリーについてのご注意

- このカメラで使用できるバッテリーは、Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5だけです。その他のバッテリーは絶対に使用しないでください。
- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、必ず「安全上のご注意」の「危険」（iv）、「警告」（iv）、「注意」（iv）の注意事項をお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」（144）を良くお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。

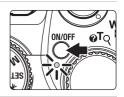
AC電源について

別売のACアダプター EH-62Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P5100へ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは**絶対に使用しないでください**。カメラの故障、発熱の原因となります。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプと液晶モニターが点灯します。

2 マルチセレクターで表示言語を選び、Ⓚ ボタンを押す

- マルチセレクターの使い方→10

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 日時設定を中止するときは［いいえ］を選びます。

4 Ⓚボタンを押す

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）が現在実施されているときは、［ワールドタイム］画面で［夏時間］のチェックボックスをオン（✔）にしてから、現在の日時を設定します。

1 Ⓚボタンを押す前に、▼を押して［夏時間］を選ぶ
2 Ⓚボタンを押して、チェックボックスをオン［✔］にする
　もう一度Ⓚボタンを押すとチェックボックスをオフにできます。
3 ▲を押してからⓀボタンを押し、手順5に進む

夏時間の期間が終了したときは、［日時設定］（123）で［夏時間］のチェックボックスをオフにしてください。カメラの時刻が1時間戻ります。

5 自宅のあるタイムゾーン（都市名）（125）を選び、OKボタンを押す

6 日時を合わせる

- マルチセレクターの ▲▼ を押してカーソルのある項目を合わせます。
- ▶を押すと、カーソルは年→月→日→時→分→年月日（日付の表示順）に移動します。
  ◀を押すと、カーソルは前の項目に移動します。

7 ［年月日］の表示順を選び、OKボタンまたは▶を押して決定する

- 設定が有効になり、撮影画面が表示されます。

設定した日時を変更する

すでに設定した日時を変更するときは、セットアップメニュー（120）の［日時設定］（123）で［日時］を選び、手順6から設定してください。

SDカードを入れる

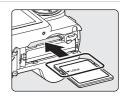
撮影または録音したデータを、カメラの内蔵メモリー（約52 MB）、または市販のSDカード（🔍137）のどちらかに記録されます。

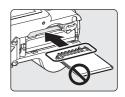
カメラにSDカードを入れると、SDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出してください。

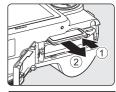
1 電源ランプの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開ける

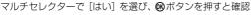
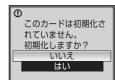
- 電源ランプが点灯しているときは、電源スイッチを押して電源をOFFにしてください。
- SDカードを抜き挿しするときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 挿入後、バッテリー/SDカードカバーを閉めてください。

☑ 逆挿入注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

SDカードを取り出すときは

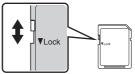
電源をOFFにし、電源ランプの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。カードを指で軽く奥に押し込んで離すと①、カードが押し出されるので②、まっすぐ引き抜いてください。

SDカードの初期化

電源をONにしたときに右のように表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化（131）すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。

マルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押すと確認画面が表示されます。［初期化する］を選び、OKボタンを押すと初期化が始まります。

- **初期化中は、電源を OFF にしたり、バッテリー/SD カードカバーを開けたりしないでください。**
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化（131）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

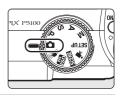
SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

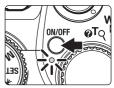
書き込み禁止スイッチ

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして（オート撮影）を選ぶ

（オート撮影）モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

1　モードダイヤルをに合わせる

2　電源スイッチを押して電源をONにする

- 電源ランプと液晶モニターが点灯し、レンズが繰り出します。

3　液晶モニターでバッテリー残量と記録可能コマ数を確認する

記録可能コマ数

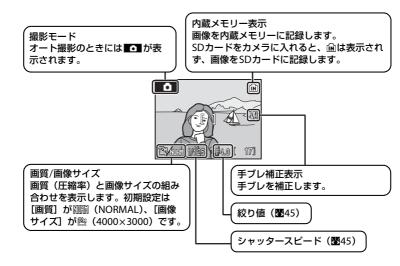
バッテリー残量

モニター表示	内容
表示なし	バッテリー残量は充分にあります。
	バッテリー残量が少なくなりました。 バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。

記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画質、画像サイズによって異なります。

（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

（オート撮影）モードで使用可能な機能について

（オート撮影）モードではフラッシュモード（30）の変更、セルフタイマー（32）、フォーカスモード（33）、および露出補正（34）の設定ができます。また、（オート撮影）モードのときにMENUボタンを押すと、撮影メニューの［画質］（91）と［画像サイズ］（92）を設定できます。

手ブレ補正について

［手ブレ補正］（128）を［ON］（初期設定）にすると、望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時におこりがちな手ブレを効果的に補正できます。
手ブレ補正機能は、すべての撮影モードで使えます。
三脚などに固定して撮影するときは、［手ブレ補正］を［OFF］にしてください。

撮影時の節電機能について

カメラを操作しない状態が約5秒続くと、バッテリーの消耗を抑えるため、液晶モニターの表示が暗くなります。カメラを操作すると、元の明るさに戻ります。また、カメラを操作しない状態が約1分（初期設定）続くと、液晶モニターが自動的に消灯します。そのまま約3分経過すると、電源が自動的にOFFになります（130）。

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

1 カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。レンズや内蔵フラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

- 縦位置で撮影するときは、フラッシュ発光部を上にしてください。

2 構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

ファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、ファインダーを使って撮影してください。

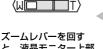
ファインダーについてのご注意

次のような場合は、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲が異なりますので、液晶モニターで構図を確認してください。

- カメラと被写体の距離が近い場合（特に約1 m以内）
- コンバーターレンズ（別売）を使用する場合（110、138）
- 電子ズームを使用する場合（25、129）
- ［画像サイズ］が［3:2 3984×2656］、［16:9 3968×2232］、［1:1 2992×2992］の場合

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。
被写体を大きく写したいときは**T**（Q）方向にズームレバーを回してください。
広い範囲を写したいときは**W**（▦）方向にズームレバーを回してください。

光学ズームを最も望遠側にして、さらに**T**（Q）方向に回し続けると、電子ズームが作動し、光学ズームの最大倍率（約3.5倍）の約4倍（総合倍率：約14倍）まで拡大できます。
電子ズーム使用時は、画面中央でピント合わせを行います。
ズームの量は液晶モニター上部で確認できます。

ズームレバーを回すと、液晶モニター上部にズームの量が表示されます

光学ズームの最大倍率

電子ズームが作動すると、表示が黄色に変わります

✔ 電子ズームと画質について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため画質の劣化が生じます。ただし、画像サイズ（▣92）が小さいときは、次の表の倍率まで、電子ズームによる画質の劣化はありません。劣化しない最大倍率まで到達すると、ズーム動作が一時的に止まり、さらに**T**（Q）（拡大）方向に回し続けて倍率を上げると画質の劣化が始まります。画質が劣化するズーム位置では、液晶モニターに▣が表示されます。

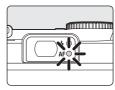
劣化しない最大ズーム倍率

画像サイズ	倍率
12M、3:2 16:9、1:1	3.5倍（光学ズーム最大倍率まで）
8M	4.2倍（電子ズーム1.2倍）
5M	4.9倍（電子ズーム1.4倍）
3M	6.3倍（電子ズーム1.8倍）
2M	8.4倍（電子ズーム2.4倍）
1M	10.5倍（電子ズーム3.0倍）
PC	13.3倍（電子ズーム3.8倍）
TV	14倍（電子ズーム4倍）

電子ズームの倍率を画像が劣化しない範囲内に制限したり、電子ズームが作動しない設定にできます（▣129）。

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 画面中央の AF エリアに重なっている被写体にピントが合います。
- ピントが合うと、AFエリア表示が緑色に点灯し、ファインダー右横のAFランプも点灯します。
- AF エリアが赤色点滅したり、AF ランプが高速点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- 電子ズーム使用時は AF エリアは表示されず、画面中央の被写体にピントが合います。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出が合い、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。
シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、ピントと露出が固定　　そのまま深く押し込んで撮影

画像の記録についてのご注意

液晶モニターに⌛が表示されているときや、🄸または🄳(SDカード使用時)が点滅しているとき、AFランプが点滅しているときは、画像の記録中です。バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されなかったり、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアとAFランプが緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、同距離にある別の被写体にピントを合わせてフォーカスロック撮影をお試しください。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF表示が緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

AF補助光とフラッシュについて

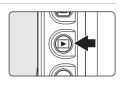
暗い場所などでは、シャッターボタンを半押しするとAF補助光が点灯することや、シャッターボタンを全押ししたときにフラッシュが発光することがあります。AF補助光が届く距離は、広角側で約1.9 m、望遠側で約1.1 mです。AF補助光を点灯しない設定にできますが、ピントが合いにくくなることがあります（🔗129）。

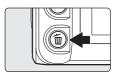
ステップ4　撮影した画像を確認する/削除する

画像を確認する（再生モード）

▶ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- マルチセレクターの ▲▼◀▶ で前後の画像を表示できます。ボタンを押し続けると、画像を早送りできます。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INが表示されず、SDカードの画像が再生されます。

画像を削除する

1 削除したい画像を表示して🗑ボタンを押す

2 マルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押す

- 削除をやめるときは、［いいえ］を選んでOKボタンを押します。

再生モードで使える機能

再生モードの1コマ表示中は、次の機能が使えます。

機能	ボタン	内容	
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	53
サムネイル表示する	W（サムネイル）	4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像を表示します。	51
サムネイルロータリー表示する	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回すと、サムネイルロータリー表示になります。	52
情報を表示/非表示にする	表示ボタン	液晶モニターに表示される画像情報、撮影情報の表示/非表示を切り換えます。	12
音声メモを録音/再生する	OK	最大20秒の音声を録音/再生します。	59
撮影モードに切り換える	再生ボタン / シャッターボタン	再生ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	28

再生ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で再生ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SDカードをカメラから取り出してください。

撮影時に画像を削除する

撮影時に削除ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

フラッシュを使う

フラッシュの発光モードを撮影状況に合わせて設定できます。フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.3～8.0 m、望遠側で約0.3～4.0 mです（ISO感度設定がオート時）。

AUTO 自動発光

暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。

赤目軽減自動発光

人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます（31）。

発光禁止

フラッシュは発光しません。

強制発光

被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。

スローシンクロ

自動発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景をきれいに写します。

リアシンクロ

シャッターが閉じる直前にフラッシュを発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定方法

1 （フラッシュモード）を押す

- 液晶モニターにフラッシュモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターでモードを選び、OK ボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- AUTO（自動発光）にすると、AUTOが5秒間表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

✓ ⊛（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などに固定して撮影するときは、［手ブレ補正］（128）を［OFF］にしてください。
- 液晶モニターにISOと表示されることがあります。ISOと表示されたときは、ISO感度が上がっているため、通常よりもざらついた画像になることがあります。

✓ フラッシュ使用時のご注意

フラッシュを使用して撮影すると、フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込んでしまうことがあります。このようなときは、フラッシュモードを⊛（発光禁止）にして撮影することをおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタン半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

また、フラッシュ撮影後にバッテリー残量が少なくなると、フラッシュ充電が終わるまで液晶モニターが消灯し、フラッシュランプが点滅します。

フラッシュモードの設定について

（オート撮影）モード、高感度モード、または露出モード**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定は、AUTO（自動発光）です。

（オート撮影）モードで設定したフラッシュモードは、（赤目軽減自動発光）に設定して撮影した場合を除き、電源をOFFにするとAUTO（自動発光）に戻ります。

シーンモードのフラッシュモード設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、各モードの初期設定に戻ります。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。

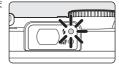
フラッシュが本発光する前に、少量発光を数回行い赤目現象の発生を軽減します。

さらに、カメラが撮影した画像を記録する前に赤目現象を検出したときは、赤目部分に補正を加えてから記録します。

撮影する際には、次の点にご注意ください。

- シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。そのため、シャッターチャンスを優先する撮影にはおすすめできません。
- 次の撮影ができるまでの時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

関連ページ

別売のスピードライト（外付けフラッシュ）について→139

セルフタイマーを使う

記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。タイマー時間は10秒と3秒の2種類から選べます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚を使うときは、[手ブレ補正]（128）を[OFF]にしてください。

1 （セルフタイマー）を押す

- 液晶モニターにセルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで[10s]または[3s]を選び、OKボタンを押す

- [10s]（10秒）：記念撮影などに適しています。
- [3s]（3秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、セルフタイマーランプが点滅します。シャッターが切れる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれるまでの秒数が液晶モニターに表示されます。シャッターがきれると、セルフタイマーは[OFF]になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

フォーカスモードを使う

撮影目的に合わせて、次のフォーカスモードを選べます。

AF	**通常AF**
	被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから30 cm以上（最も望遠側の場合は70 cm以上）離れた被写体を撮影するときに使います。
▲	**遠景AF**
	窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。レンズから5 m以上離れた遠景にピントを合わせます。フラッシュは⊛（発光禁止）になります。
🌷	**マクロAF**
	花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。液晶モニターの🌷マークが緑色で表示される広角側のズーム位置では、レンズ前約4 cmまでの被写体にピントを合わせることができます。

フォーカスモードの設定方法

1 🌷（フォーカスモード）を押す

- 液晶モニターにフォーカスモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターでフォーカスモードを選び、Ⓚボタンを押す

- 設定したフォーカスモードが表示されます。
- AF（通常AF）にすると、AFが5秒間表示されます。
- Ⓚ ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

マクロAFについて

マクロAFでは、カメラが自動的にAF（オートフォーカス）によるピント合わせを繰り返しますが、シャッターボタンを半押しするとピントを固定して、露出が決まります。
ただし、モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のときは、［AF-MODE］（📖107）の設定が優先されます。

フォーカスモードの設定について

📷（オート撮影）モード、ブレ軽減モード、高感度モード、または露出モード**P**、**S**、**A**、**M**の初期設定は、AF（通常AF）です。📷（オート撮影）モードで設定したフォーカスモードは、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、AF（通常AF）に戻ります。シーンモードのフォーカスモード設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、各シーンの初期設定に戻ります。

露出を補正する

画像全体を明るくしたいときや暗くしたいときなどに使います。

1 （露出補正）を押す

- 液晶モニターに露出補正値が表示されます。
- モードダイヤルが**M**（マニュアル露出）のときは、露出補正ができません。

2 マルチセレクターの▲または▼を押して補正値を選ぶ

- 液晶モニターに露出補正の設定メニューが表示されます。
- 被写体が暗すぎるとき：補正値を＋側に設定してください。
- 被写体が明るすぎるとき：補正値を－側に設定してください。
- －2.0 EVから＋2.0 EVの範囲で1/3ステップごとに補正できます。

3 シャッターボタンを押して撮影する

- 手順2と3を繰り返して、補正値を少しずつずらしながら撮影することもできます。

4 OKボタンを押して露出補正の設定を終了する

- ［0.0］以外に設定すると、液晶モニターに図マークと補正値が表示されます。
- 露出補正を解除するときは、OKボタンを押す前に補正値を［0.0］にするか、手順1と2の順に操作して補正値を［0.0］にしてください。

露出補正の設定について

（オート撮影）モード、シーンモードまたはブレ軽減モードの露出補正の設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると解除され、［0.0］に戻ります。

露出補正について

- 構図の大部分が非常に明るいとき（太陽が反射する水や砂、雪を撮影するときなど）、背景が被写体より明るすぎるときは、カメラが自動的に被写体を暗くする傾向があります。被写体が暗すぎるときは、露出補正値を「＋」側に設定してください。
- 構図の大部分が非常に暗いとき（暗い緑の森を撮影するときなど）、背景が被写体よりも暗すぎるときは、カメラが自動的に被写体を明るくする傾向があります。被写体が明るすぎるときは、露出補正値を「ー」側に設定してください。

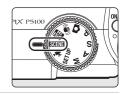
シーンモード

次の撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。音声のみを録音する音声レコード機能も選べます。

ポートレート	パーティー	夜景	モノクロコピー
風景	海・雪	クローズアップ	逆光
スポーツ	夕焼け	ミュージアム	パノラマアシスト
夜景ポートレート	トワイライト	打ち上げ花火	音声レコード※

※「音声レコード機能を使う」(71)をご覧ください。

シーンモードの設定方法

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターでシーンを選んで、OKボタンを押す

3 構図を決めて撮影する

コマンドダイヤルでシーンを選ぶ

メニューボタンを押すかわりに、上記の手順1でFnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても、シーンを切り換えできます。

画質と画像サイズの設定

[シーンメニュー]で[画質](91)と[画像サイズ](92)を設定できます。[画質]と[画像サイズ]の設定は他のモードと連動しているため、どのモードで設定しても同じ設定になります。

シーンモードの種類と特徴

ポートレート

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 106）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

	※		OFF※		AF		0.0※		AUTO※

※ 変更できます。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ（26）が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

			OFF※				0.0※		OFF

※ 変更できます。

説明で使われているマークについて

はフラッシュモード（30）、はセルフタイマー（32）、はフォーカスモード（33）、は露出補正（34）、はAF補助光（129）の設定です。

シーンモードの設定について

各シーンのフラッシュ、セルフタイマー、フォーカスモードまたは露出補正の設定は、ほかの撮影モードに切り換えたり、電源をOFFにすると、それぞれのシーンの初期設定に戻ります。

スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、ピント合わせを繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約 1.0 コマ / 秒で最大 5 コマまで連写できます（画質が NORMAL、画像サイズが 4000×3000 のとき）。ピントと露出、ホワイトバランスは 1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画質､画像サイズや SD カードの種類により､最大連写速度が遅くなることがあります。
- 画面中央にピントが合います。

			OFF		AF		0.0※		OFF

※ 変更できます。

夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると､顔にピントが合います（顔認識撮影について→ 106）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

	※1		OFF※2		AF		0.0※2		AUTO※2

※1 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※2 変更できます。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、［手ブレ補正］（128）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

	※1		OFF※2		AF		0.0※2		AUTO※2

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［手ブレ補正］（128）を［OFF］にしてください。

NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

海・雪

晴天の海や砂浜、雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	AF	露出補正	0.0※	D-ライティング	AUTO※

※　変更できます。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	発光禁止※	セルフタイマー	OFF※	マクロ	AF	露出補正	0.0※	D-ライティング	AUTO※

※ 変更できます。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常にAFランプ(26)が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	遠景	露出補正	0.0※	D-ライティング	OFF

※ 変更できます。

三脚：三脚がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［手ブレ補正］（128）を［OFF］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプ(26)が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

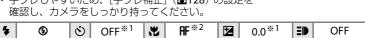
フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	フォーカス	遠景	露出補正	0.0※	D-Lighting	OFF

※ 変更できます。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- フォーカスモード(33)が(マクロAF)になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。

- マークが緑色で表示される広角側のズーム位置では、レンズ前約 4 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- ズーム位置により最短撮影距離は変わります。
- [AF エリア選択] は[マニュアル]になり、Ⓚボタンを押すとピント合わせを行うAFエリアを選べます(105)。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、ピント合わせを繰り返します。
- 手ブレしやすいため、[手ブレ補正](128)の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

フラッシュ	AUTO※	セルフタイマー	OFF※	フォーカス	マクロ	露出補正	0.0※	D-Lighting	AUTO※

※ 変更できます。被写体から30 cm以上離れなければ、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- [BSS]（ベストショットセレクター）（101）を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、[手ブレ補正]（128）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※1	フォーカス	AF※2	露出補正	0.0※1	D-Lighting	OFF

※1 変更できます。
※2 （マクロAF）に変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、[手ブレ補正]（128）を [OFF] にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

打ち上げ花火

スローシャッターで、打ち上げ花火をきれいに撮影できます。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常にAFランプ(26)が点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

			OFF				0.0		OFF

モノクロコピー

Bishop Museum's Native Hawaiian Culture & Arts Program funded through a cooperative agreement with the National Park Service, supported this renovation of the Kāhili Room.

Bishop Museum gratefully acknowledges the direction provided by the members of the Kāhili Room Advisory Committee:

John Keola Lake
Watters O. Martin, Jr.
William K. Maioho
Kealoha Kelekolio
Keali'i Gora

Extensive improvements to the Kāhili Room were completed in 1980 and were made possible through generous donations from the Harold K.L. Castle Foundation and the J. Watumull Estate.

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（33）の［ マクロ AF］を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

	※1		OFF※1		AF※2		0.0※1		AUTO※1

※1 変更できます。
※2 （マクロAF）に変更できます。

逆光

逆光状態での撮影に使います。内蔵フラッシュが常に発光し、人物が影にならずに美しく撮影できます。

- 画面中央でピントを合わせます。

			OFF※		AF		0.0※		AUTO※

※ 変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［手ブレ補正］（128）を［OFF］にしてください。

⌘ パノラマアシスト

撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker」を使ってパソコンでパノラ マ写真に合成します。

- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⊛※	⏲	OFF※	🌷	AF※	☒	0.0※	≡D	AUTO※

※ 変更できます。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などに固定して撮影するときは[手ブレ補正]（☒128）を[OFF]にしてください。

1 シーンメニューからマルチセレクターで［⌘ パノラマアシスト］を選び、Ⓚボタンを押す（☒35）

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが黄色で表示されます。

2 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 右方向につなげるときは ▷、左方向は ◁、上方向は △、下方向は ▽ を選びます。
- 選んだ方向に▷マークが移動し、Ⓚ ボタンを押すと白色に変わります。
- フラッシュモード（☒30）、セルフタイマー（☒32）、フォーカスモード（☒33）、露出補正（☒34）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度Ⓚボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

4 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

5 必要な画像を撮影し終わったら、ⓚボタンを押す

- 手順2の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモード、露出補正は、撮影開始前に設定してください。撮影開始後に設定の変更はできません。撮影開始後は、画質（91）、画像サイズ（92）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（130）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AEL 表示について

パノラマアシストモードでは、1コマ目を撮影すると、画面に AEL が表示されます。これは、露出とホワイトバランスがロック（固定）されたことを示しています。これによってパノラマ写真を構成するすべての画像を、同じ露出とホワイトバランスで撮影できます。

Panorama Maker について

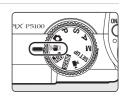
Panorama Maker は、付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。撮影した画像をパソコンに転送して（77）、Panorama Maker でパノラマ写真に合成してください（80）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

ブレ軽減モード

ブレ軽減モードでは、自動的に［手ブレ補正］（128）が［ON］に、［連写］（101）が［BSS］になります。さらに、被写体の明るさに応じてISO感度が1600まで自動的に上がるため、同じ明るさの被写体でも（オート撮影）モードよりシャッタースピードが速くなり、手ブレや被写体ブレの軽減に効果があります。フラッシュが発光禁止に設定されるので、自然光を活かしながらズームを望遠側にして被写体の自然な表情をとらえるのに適しています。動物を撮影する場合など、被写体に近づけないときや、被写体にカメラを意識させずに離れた場所から撮影したいときなどに便利です。

1 モードダイヤルをに合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押ししている間、最大10コマを連写し、最も鮮明な1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

ブレ軽減モードのご注意

- 被写体が暗いときは、シャッタースピードは一定値に制限されます。
- 薄暗い場所で撮影するときは、高感度モード（44）の使用をおすすめします。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

ブレ軽減モードでの機能設定

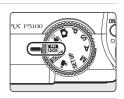
自動的に［手ブレ補正］（128）が［ON］に、［連写］（101）が［BSS］になり、フラッシュは発光禁止に設定されます。また、フォーカスモードと露出補正は設定できますが、セルフタイマーは使えません。

画質と画像サイズの設定

ブレ軽減モードでMENUボタンを押してブレ軽減メニューを表示すると、［画質］（91）と［画像サイズ］（92）を設定できます。［画質］と［画像サイズ］の設定は他のモードと連動しているため、どのモードで設定しても同じ設定になります。

高感度モード

高感度モードでは、ISO感度が高めに設定されるため、薄暗いシーンでも手ブレや被写体ブレの影響を軽減し、その場の雰囲気を活かした撮影ができます。被写体の明るさに応じて、ISO感度は1600まで自動的に上がります。

1 モードダイヤルを高感度モードに合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9 つある AF（オートフォーカス）エリアのうち、最もカメラに近い被写体があるAFエリアでピントが合います（26、105）。

高感度モードのご注意

- 薄暗い場面でも手ブレを軽減しますが、フラッシュを使わないときは、カメラを三脚などで固定して撮影することをおすすめします。三脚を使うときは、［手ブレ補正］（128）を［OFF］にしてください。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。
- 極端に暗い場面では、ピントが合いにくくなることがあります。

高感度モードとブレ軽減モードについて

高感度モードとブレ軽減モード（43）は、どちらも手ブレや被写体ブレの影響を軽減しますが、薄暗いシーンでは高感度モードが効果的です。フラッシュを発光禁止にすると、撮影するシーンによってはその場の雰囲気をさらに活かせます。
高感度モードのときにMENUボタンを押すと、［ISO感度設定］以外の撮影メニュー項目を設定できます（89）。また、フラッシュ、セルフタイマー、フォーカスモード、および露出補正も設定できます。
ブレ軽減モードでは、自動的に［手ブレ補正］（128）が［ON］に、［連写］が［BSS］（101）になり、フラッシュは発光禁止になります。

露出モード

モードダイヤルを切り換えて、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）の4種類の露出モードを使って撮影できます。
露出モード**P**、**S**、**A**、**M**では、シャッタースピードや絞りを自分で設定できるほか、ホワイトバランスなどを変更して、さらに高度な撮影を楽しめます。

露出モード	内　容	こんなときに
P **プログラムオート（46）**	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト（46）もできます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S **シャッター優先オート（47）**	設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。
A **絞り優先オート（48）**	設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。
M **マニュアル露出（49）**	シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由に設定できます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調整して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞りの組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。

速いシャッタースピードのとき
1/1000秒

遅いシャッタースピードのとき
1/30秒

絞りを絞り込んだとき（絞り値が大きいとき）
F 7.6

絞りを開いたとき（絞り値が小さいとき）
F 2.7

P（プログラムオート）での撮影方法

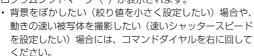
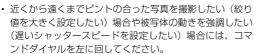
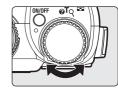
1 モードダイヤルをPに合わせる

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最もカメラに近い被写体があるAFエリアでピントが合います（105）。

プログラムシフトについて

P（プログラムオート）で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組合せを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上の**P**表示の横にプログラムシフトマーク（*）が表示されます。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や、動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを右に回してください。

- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（*）が消えるまでコマンドダイヤルを回してください。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］（101）を［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］、［マルチ連写］にするか、［ブラケティング］（104）を［OFF］以外にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

S（シャッター優先オート）での撮影方法

1 モードダイヤルを**S**に合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピード（1/2000〜8秒）を設定する

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も カメラに近い被写体があるAFエリアでピントが合います（105）。

S（シャッター優先オート）撮影時のご注意

- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定したシャッタースピードで撮影できないことがあります。このようなときは適切な露出が得られていないため、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターのシャッタースピード表示が点滅します。設定したシャッタースピードを変えてください。
- 1/4秒以下の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときは液晶モニターのシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［ノイズ低減］（109）を［ON］にすることをおすすめします。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］（101）を［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］、［マルチ連写］にするか、［ブラケティング］（104）を［OFF］以外にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

シャッタースピード1/2000秒について

1/2000秒のシャッタースピードは、ズームの最も広角側でのみ設定できます。

A（絞り優先オート）での撮影方法

1 モードダイヤルをAに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、絞り値（開放絞り～最小絞り）を設定する

- 絞り値は、ズームの最も広角側ではF 2.7～7.6、最も望遠側ではF 5.3～7.3の範囲で設定できます。

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最もカメラに近い被写体があるAFエリアでピントが合います（105）。

A（絞り優先オート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定した絞り値で撮影できないことがあります。このようなときは適切な露出が得られていないため、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターの絞り値表示が点滅します。設定した絞り値を変えてください。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］（101）を［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］、［マルチ連写］にするか、［ブラケティング］（104）を［OFF］以外にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値で、レンズの焦点距離を有効口径（レンズの中にある絞りとそこを通る光の関係を数値化したもの）で割った数値のことをいいます。この数値が小さくなるに従って明るくなり、大きくなるに従って暗くなります。また、そのレンズの絞りの一番小さい数値を開放絞り値といい、一番大きい数値を最小絞り値といいます。このカメラのレンズ（7.5-26.3 mm F 2.7-5.3）はズーム位置によって絞り値が変化します。望遠側にズームすると絞り値が大きくなり、広角側にズームすると絞り値が小さくなります。露出モードが**A**または**M**のとき、撮影メニューの［ズーム時F値保持］（109）を［ON］に設定することで、この絞り値の変化を最小限に抑えることができます（制御できる絞り値の範囲はF 5.1～F 7.3です）。

M（マニュアル露出）での撮影方法

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 マルチセレクターの ▶ を押して、シャッタースピードを選ぶ

- マルチセレクターの▶を押すごとに、シャッタースピードと絞り値が交互に切り換わります。
- 1/4秒以下の低速シャッタースピードの場合は、液晶モニターのシャッタースピード表示が赤色に点灯します（47）。

3 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピード（1/2000～8秒）を設定する

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組合せによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに数秒間表示されます。

- 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－2 EVから+2 EVの範囲で1/3 段ごとに表示されます。
  図は露出が1段オーバーのときの例です。

←**露出オーバー**　**露出アンダー**→

+2　±0　-2

+1　-1

露出インジケーター

4 もう一度マルチセレクターの▶を押して、絞り値を選ぶ

5 コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2〜5を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

6 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最もカメラに近い被写体があるAFエリアでピントが合います（105）。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］（101）を［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］、［マルチ連写］にするか、［ブラケティング］（104）を［OFF］以外にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

シャッタースピード1/2000秒について

1/2000秒のシャッタースピードは、ズームの最も広角側でのみ設定できます。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（28）でズームレバーを**W**（ ）（サムネイル表示）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。
サムネイル表示では、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容	
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。	10
	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回します。	–
表示コマ数を増やす（4→9→16コマ）	**W**（ ）	ズームレバーを**W**（ ）方向に回します。	–
表示コマ数を減らす（16→9→4コマ）	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	28
撮影モードに切り換える	▶ ↓ シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	28

サムネイルに表示されるマーク

プロテクト設定（118）した画像には、右のマークが表示されます（16コマサムネイル表示を除く）。動画は映画フィルムの1コマのように表示されます。

：プロテクト設定マーク

動画表示

複数の画像を回転表示する（サムネイルロータリー表示）

再生モードの1コマ表示（28）でコマンドダイヤルを回すと、「サムネイルロータリー表示」になります。液晶モニターの右側にサムネイル画像を表示し、回転を止めると中央のサムネイル画像を左側に表示します。
サムネイルロータリー表示では、次の操作ができます。

• サムネイルロータリー表示中にカメラを操作しない状態が約10秒続くと、左側に表示されている画像が1コマ表示されます。

機能	ボタン	内容	
画像を選ぶ		コマンドダイヤルを回します。	–
		マルチセレクターの▲▼を押します。	10
1コマ表示に戻る	OK T(Q)	OKボタンを押すか、ズームレバーを**T**（Q）（拡大）方向に回します。	28
撮影モードに切り換える	▶ ↓	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	28

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（28）でズームレバーを**T**（Q）（拡大）方向に回すと、表示中の画像の中央部が約3倍に拡大表示されるクイック拡大表示になります。画面右下のガイドは、どの部分を表示しているかを示しています。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示する部分を切り換えます。

顔認識して撮影した画像は、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます。複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。

さらにズームレバーを操作すると、拡大率を変更できます。拡大率は画面に表示され、最大約10倍まで拡大できます。
拡大表示では、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容	
拡大倍率を上げる	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。コマンドダイヤルを右に回しても拡大倍率が上がります。	–
拡大倍率を下げる	**W**（）	ズームレバーを**W**（）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。 コマンドダイヤルを左に回しても拡大倍率が下がります。	–
表示範囲を移動する		マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	10
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	28
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	56
撮影モードに切り換える	▶	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	28

画像を編集する

このカメラでは次の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別の画像として、異なるファイル名で保存されます（140）。

編集の種類	内容	用途
D-ライティング	画像の暗い部分を明るく補正する	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正したいとき
トリミング	画像の一部を切り抜く	被写体をクローズアップしたいとき、構図に手を加えたいときなど
スモールピクチャー	小さいサイズの画像を作成する	メールに添付して送信する場合など、画像のサイズを小さくしたいとき
黒フレーム	画像の周りに黒い枠を付ける	画像に境界線を付けたいときなど

画像編集を適用する際のご注意

- ［画像サイズ］（92）を［3984×2656］、［3968×2232］、［2992×2992］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。
- COOLPIX P5100以外で撮影した画像は、COOLPIX P5100で編集できません。
- COOLPIX P5100以外のデジタルカメラでは、COOLPIX P5100で編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

	2回目の編集			
1回目の編集	D-ライティング	トリミング	スモールピクチャー	黒フレーム
D-ライティング	×	○	○	×
トリミング	×	×	×	×
スモールピクチャー	×	×	×	×
黒フレーム	×	×	×	×

- 同じ画像編集を2回行うことはできません。
- D-ライティングと、トリミングまたはスモールピクチャーを組み合わせて編集するときは、D-ライティングを先に行ってください。
- 編集した画像に黒フレームは付けられません。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［プリント指定］（87）や［プロテクト設定］（118）された画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像の暗い部分を明るく補正する（D-ライティング）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。D-ライティングで補正した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（28）またはサムネイル表示（51）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- サムネイルロータリー表示でも画像を選べます（52）。

2 マルチセレクターで［D-ライティング］を選び、OKボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ［実行］を選び、OKボタンを押す

- 補正画像が作成されます。
- D-ライティングを中止するときは、［キャンセル］を選び、OKボタンを押します。
- D-ライティングを行った画像は、再生画面でが表示されます。

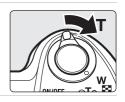
再生機能を使いこなす

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

画像の一部を切り抜く（トリミング）

拡大表示（53）中に MENU:✂ マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示でズームレバーを**T**（🔍）方向に回して、画像を拡大表示する

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（🔍）または**W**（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［はい］を選び、OK ボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。

- トリミングで作成した画像の画像サイズは、拡大倍率により異なります。次のうちから最適なものをカメラが自動的に選びます（単位：ピクセル）。
  - 12M 4,000×3,000
  - 8M 3,264×2,448
  - 5M 2,592×1,944
  - 4M 2,272×1,704
  - 3M 2,048×1,536
  - 2M 1,600×1,200
  - 1M 1,280×960
  - PC 1,024×768
  - TV 640×480
  - 320×240
  - 160×120
- トリミングで作成された画像の画像サイズが 320×240または160×120のときは、グレーの枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

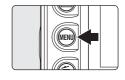
記録データのファイル名とフォルダ名→140

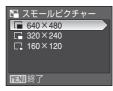
小さいサイズの画像を作成する（スモールピクチャー）

撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。作成するスモールピクチャーの大きさは、次の3種類から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

種類	内容
640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

1 再生モードの1コマ表示（28）またはサムネイル表示（51）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- サムネイルロータリー表示でも画像を選べます（52）。

2 マルチセレクターで［スモールピクチャー］を選び、Ⓚボタンを押す

3 スモールピクチャーのサイズを選び、Ⓚ ボタンを押す

4 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。
- スモールピクチャーで作成した画像は、グレーの枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

再生機能を使いこなす

画像の周りに黒い枠を付ける（黒フレーム）

撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。黒い枠の太さは、［細］、［中］、［太］の3種類から選べます。黒い枠を付けた画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（28）またはサムネイル表示（51）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- サムネイルロータリー表示でも画像を選べます（52）。

2 マルチセレクターで［黒フレーム］を選び、OKボタンを押す

3 黒い枠の太さを選び、OKボタンを押す

4 「はい」を選び、OKボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［いいえ］を選びます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像を縁なしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

画像に音声メモを付ける

再生モードの1コマ表示（28）でOK：マーク（音声メモ録音ガイド）が表示されている画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

OKボタンを押している間、約20秒まで音声メモを録音できます。

- 録音中は、カメラのマイクに触れないようにご注意ください。
- 録音中はRECと♪が点滅します。

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像を1コマ表示して、OKボタンを押すと音声メモが再生されます。再生が終わるか、もう一度OKボタンを押すと再生が終了します。

- 音声メモ付きの画像には、OK：♪（音声メモ再生ガイド）と♪が表示されます。
- 再生中は、ズームレバーで音量を調整できます。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで削除ボタンを押します。マルチセレクターで［[♪]］を選んでOKボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P5100以外で撮影した画像には、COOLPIX P5100で音声メモを付けられません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

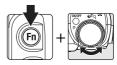
特定の日付の画像を選ぶ

カレンダーモード、撮影日一覧モードにすると、撮影した日付を選んで画像を表示できます。

MENU ボタンを押して、カレンダー /撮影日一覧メニューを表示すると、同じ日付の画像をまとめて削除したり、プリント指定やプロテクトなどを一度に設定できます。

カレンダーモードで日付を選ぶ

1 再生時に**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して［カレンダー］を選ぶ

- **Fn** ボタンを離すと、カレンダーモードになります。

2 日付を選び、OKボタンを押す

- 撮影画像のある日付に黄色の下線が表示されます。黄色の下線がついている日付を選びます。
- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと前の月、**T**（Q）方向に回すと次の月のカレンダーが表示されます。
- 選んだ日に最初に撮影した画像が、1コマ表示されます。
- 1 コマ表示の状態でズームレバーを **W**（▦）方向に回すと、カレンダーに戻ります。

再生機能を使いこなす

撮影日一覧モードで日付を選ぶ

1 再生時に**Fn**ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して［撮影日一覧］を選ぶ

- **Fn** ボタンを離すと、撮影日一覧モードになります。
- 撮影画像のある日付が撮影日として一覧表示されます。

2 日付を選び、Ⓞボタンを押す

- 表示される撮影日は最大29日分までです。撮影日が30日以上あると、［過去画像］として30日以降の画像がすべてまとめられます。

- 選んだ日に最初に撮影した画像が、1コマ表示されます。
- 1コマ表示の状態でズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、撮影日一覧に戻ります。

カレンダーモード/撮影日一覧モードの操作

日付の選択画面では、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容	👁
日付を選ぶ	マルチセレクター	カレンダーモードの場合は、マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。 撮影日一覧モードの場合は、マルチセレクターの▲▼を押します。 コマンドダイヤルを回しても日付を選べます。	–
前月を選ぶ（カレンダーモードのみ）	**W**（⊞）	ズームレバーを**W**（⊞）方向に回すと、前の月のカレンダーを表示します。	–
翌月を選ぶ（カレンダーモードのみ）	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、次の月のカレンダーを表示します。	
1コマ表示する	OK	選んだ日付の画像を1コマ表示します。 1コマ表示から日付の選択画面に戻るには、ズームレバーを**W**（⊞）方向に回します。	28
画像を削除する	🗑	選んだ日付の画像を、まとめて削除します。表示される削除確認画面で［はい］を選びます。	28
カレンダー/撮影日一覧メニューを表示する	MENU	カレンダー/撮影日一覧メニューを表示します。	63
撮影モードに切り換える	▶ ⬇ シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	28

✔ カレンダーモード/撮影日一覧モードについてのご注意

- カレンダーモードと撮影日一覧モードで表示できる画像は、最新の画像から9,000 コマまでです。9,001 コマ目を含む日付の画像枚数表示には、「*」マークが表示されます。
- 日時を設定せずに撮影した画像は、表示できません。

カレンダー /撮影日一覧メニュー

カレンダーモード/撮影日一覧モードでMENUボタンを押すと、選んだ日付の画像だけを対象とする以下のメニューが表示されます。

D-ライティング※	55
プリント指定	87
スライドショー	117
削除	118
プロテクト設定	118
非表示設定	118
スモールピクチャー※	57
黒フレーム※	58

※1コマ表示時のみ

日付の選択画面（60、61）でMENUボタンを押すと、同じ日付の画像に同一の設定をまとめて行ったり、同じ日付の画像をまとめて削除できます。
画像ごとに設定を変更したり、削除する画像を選ぶときは、1コマ表示にしてからMENUボタンを押してください。

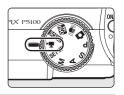
［プリント指定］についてのご注意

選んだ日付以外の画像がすでにプリント指定されていると、［選択日以外のプリント指定を残しますか？］という確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと、前回の設定内容に今回の設定内容が追加されます。［いいえ］を選ぶと、前回の設定は削除され、今回の設定だけが残ります。

動画を撮影する

動画（音声付き）を撮影できます。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

- 液晶モニターに、記録できる時間が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始する

- ピントは画面中央にある被写体に合います。
- 液晶モニターで記録できる残り時間の目安を確認できます。
- 撮影を終了するには、もう一度シャッターボタンを全押しします。

動画撮影についてのご注意

- フォーカスモード（33）の変更と露出補正（34）ができます。フラッシュ（30）は、微速度撮影のみで使えます。セルフタイマーは使えません。
- 動画撮影中にフラッシュモード、フォーカスモードまたは露出補正の設定や変更はできません。撮影を開始する前に設定してください。
- 動画撮影を開始すると光学ズームは使えません。
  電子ズームは動画撮影の開始前は使えませんが、微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動します。
- 記録可能な最大ファイルサイズは4 GBです。

動画撮影の設定を変更する

- 動画メニューで［動画設定］、［AF-MODE］を変更できます（65）。
- ［動画設定］が［微速度撮影］のときは、動画に音声は付きません。

動画撮影の設定を変更する（動画メニュー）

動画メニューで［動画設定］、［AF-MODE］（67）を変更できます。
動画モードで、MENUボタンを押して動画メニューを表示し、マルチセレクターで設定してください。

動画設定

撮影する動画の種類を選びます。

種類	画像サイズとフレーム数
TV再生640★ （初期設定）	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：30フレーム/秒
TV再生640	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
カメラ再生320	画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
長時間再生160	画像サイズ：160×120ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
微速度撮影640★ （68）	自動的に一定間隔で静止画を連続撮影してから、その静止画をつないで動画として記録します。 音声は記録できません。 画像サイズ：640×480ピクセル 再生フレーム数：30フレーム/秒
セピア動画320	セピア調の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
白黒動画320	白黒の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒

コマンドダイヤルで動画の種類を選ぶ

MENUボタンを押すかわりに、撮影画面でFnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても動画の種類の切り換えができます。

動画の記録可能時間/フレーム数

種類	内蔵メモリー（約52 MB）	SDカード（256 MB）
TV再生640★（初期設定）	47秒	約3分40秒
TV再生640	1分33秒	約7分20秒
カメラ再生320	3分4秒	約14分20秒
長時間再生160	10分10秒	約47分40秒
微速度撮影640★（68）	555フレーム	動画1ファイルにつき1800フレーム
セピア動画320	3分4秒	約14分20秒
白黒動画320	3分4秒	約14分20秒

※ 数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類によって記録可能時間は異なります。このカメラで記録できる動画1ファイルの最大容量は4 GBです。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名➞140

AF-MODE

動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。

種類	内容
シングルAF（初期設定）	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行い、半押ししている間はピントを固定（フォーカスロック）します。撮影中はそのピントで固定します。
常時AF	撮影中、常にピント合わせを繰り返します。 撮影中にカメラの動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［シングルAF］に設定して撮影することをおすすめします。

微速度撮影をする

花のつぼみが開く様子を早送りで観察したいときなどに便利です。

1 動画メニューからマルチセレクターで［動画設定］を選び、Ⓚボタンを押す

2 ［微速度撮影640★］を選び、Ⓚボタンを押す

3 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- ［30秒］、［1分］、［5分］、［10分］、［30分］、［60分］から選べます。

4 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

5 シャッターボタンを全押しして、撮影を始める

- 撮影の合間は液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次の撮影時間になると、自動的に液晶モニターが点灯します。

6 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影フレーム数が1,800フレームに達すると、撮影が自動的に終了します。1,800フレーム撮影した場合は、再生時間が60秒の動画になります。

微速度撮影についてのご注意

- フラッシュモード（30）、フォーカスモード（33）、露出補正（34）は、1フレーム目を撮影する前に設定してください。2フレーム目以降はすべて同じ設定で撮影されます。撮影開始後に設定の変更はできません。
- 途中でバッテリーが切れないように、充分に充電したバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P5100へ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- 微速度撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

動画を再生する

1コマ表示（28）で動画モードのアイコンが表示されている画像が動画です。OKボタンを押すと、再生できます。
動画モードのアイコンは、撮影時の動画設定（65）によって異なります。

再生中はズームレバーで音量を調節できます。
コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。
マルチセレクターの◀▶を押して、画面上部の操作パネルのボタンを選ぶと、次の操作ができます。

動画再生中　音量表示

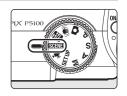
<table>
<tr><th>機能</th><th>ボタン</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>巻き戻し</td><td>◀◀</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、巻き戻します。</td></tr>
<tr><td>早送り</td><td>▶▶</td><td colspan="2">OKボタンを押している間、早送りします。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一時停止</td><td rowspan="4">❚❚</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、一時停止します。
一時停止中にマルチセレクターでコマ送り/コマ戻しができます。また、画面上部の操作ボタンで、以下の操作ができます。</td></tr>
<tr><td>◀❚❚</td><td>OKボタンを押すと、1コマ戻ります。押し続けると、連続してコマ戻しします。</td></tr>
<tr><td>❚❚▶</td><td>OKボタンを押すと、1コマ進みます。押し続けると、連続してコマ送りします。</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>OKボタンを押すと、再生を再開します。</td></tr>
<tr><td>再生終了</td><td>■</td><td colspan="2">OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。</td></tr>
</table>

動画ファイルを削除する

動画再生中や、1コマ表示（28）、サムネイル表示（51）、サムネイルロータリー表示（52）で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
［はい］を選んでOKボタンを押し、動画ファイルを削除します。削除をやめるときは、［いいえ］を選びます。

音声を録音する

音声レコードモードで、ボイスレコーダーのように、内蔵メモリーやSDカードに音声を録音できます。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで🎙（音声レコード）を選び、OKボタンを押す

- 液晶モニターに録音できる時間が表示されます。

3 シャッターボタンを全押しして録音を開始する

- 録音中はAFランプが点灯します。
- 録音開始後、カメラを操作しない状態が約30秒続くと、節電機能が働き液晶モニターが消灯します。
- 音声録音中の操作→📖72

4 シャッターボタンを全押しして録音を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または録音時間が5時間に達すると、録音が自動的に終了します。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→📖140

音声録音中の操作

機能	ボタン	内容
液晶モニターを点灯する	▶	液晶モニターが消灯しているときは、▶ボタンを押します。
録音を一時停止/再開する	OK	OKボタンを押します。一時停止中は、AFランプが点滅します。
インデックス※を付ける	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。 再生時に目的の場所が見つけやすいように、インデックスを付けます。録音開始時のインデックスは01で、その後マルチセレクターを押すたびに、98までのインデックスを付けられます。
録音を終了する	シャッターボタン	シャッターボタンを全押しします。

※ パソコンに転送した音声データは、QuickTime などのソフトウェアで再生できますが、カメラで設定したインデックスは機能しません。

音声を再生する

1 ［音声レコード］画面（🔗71の手順3）で▶ボタンを押す

2 マルチセレクターで再生する音声レコードのデータを選び、Ⓚボタンを押す

- 音声が再生されます。

音声再生中の操作

音声レコードのデータ再生中は、ズームレバーで音量を調節できます。
コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。
マルチセレクターの◀▶を押して、画面上部の操作パネルのボタンを選ぶと、次の操作ができます。

機能	ボタン	内容
巻き戻し	◀◀	Ⓞボタンを押している間、巻き戻します。
早送り	▶▶	Ⓞボタンを押している間、早送りします。
前のインデックスへ	⏮	Ⓞボタンを押すと、前のインデックスに戻ります。
次のインデックスへ	⏭	Ⓞボタンを押すと、次のインデックスに進みます。
一時停止	⏸ ▶	Ⓞボタンを押すと、一時停止します。 一時停止中に、Ⓞボタンを押すと、再生を再開します。
再生終了	■	Ⓞボタンを押すと、［音声データ選択］画面に戻ります。

音声データを削除する

音声の再生中に🗑ボタンを押すか、［音声データ選択］画面で削除する音声データを選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。［はい］を選んでⓄボタンを押し、音声データを削除します。削除をやめるときは、［いいえ］を選びます。

音声データをコピーする

内蔵メモリーからSDカードに、またはSDカードから内蔵メモリーに、音声レコードで録音したデータをコピーできます。
カメラにSDカードを入れてから操作してください。

1 ［音声データ選択］画面（73 手順2）で、MENUボタンを押す

2 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

IN➔SD：内蔵メモリーからSDカードへコピー

SD➔IN：SDカードから内蔵メモリーへコピー

3 コピーする方法を選び、OKボタンを押す

- ［選択データコピー］→手順4
- ［全データコピー］→手順5

4 コピーするデータを選ぶ

- ▶を押してデータの選択（チェックマークあり）/選択解除（チェックマークなし）を切り換えます。
- 複数のデータを選べます。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

5 コピーを確認する画面が表示されたら、［はい］を選び、OKボタンを押す

- 音声データがコピーされます。

音声データコピーについてのご注意

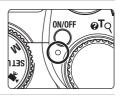
COOLPIX P5100以外で録音した音声データについては、音声データコピー機能の動作は保証しておりません。

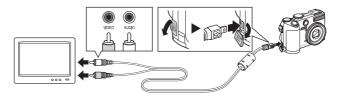
［音声データがありません］のメッセージについて

SDカードに音声レコードのデータが記録されていないときに▶ボタンを押すと（73 手順1）、［音声データがありません］と表示されますが、MENUボタンを押して［音声データコピー］画面を表示させ、内蔵メモリー内の音声データをSDカードにコピーできます。

テレビに接続する

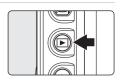
カメラを付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）でテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、白のプラグを音声入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

画像がテレビに映らないときは

[セットアップ] メニュー（120）→ [ビデオ出力]（132）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、ソフトウェア「Nikon Transfer」を使って、撮影した画像をパソコンに転送して保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、付属の Software Suite CD-ROMを使って、パソコンに「Nikon Transfer」やパノラマ写真を作成する「Panorama Maker」などのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法は、簡単操作ガイドをご覧ください。

カメラを接続できるパソコンのOS

Windows

32 bit版のWindows Vista（Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate）、Windows XP Service Pack 2（Home Edition/Professional）

- Windows 2000 Professionalをお使いの方は、カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください（79）。

Macintosh

Mac OS X（version 10.3.9、10.4.9）

対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

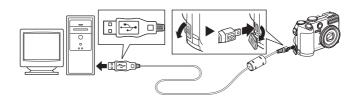
電源についてのご注意

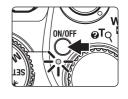
- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中でバッテリーが切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P5100へ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

1 Nikon Transferがインストールされているパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

4 カメラの電源をONにする

- Windows Vista/XPの場合：
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする-Nikon Transfer使用］（Windows Vista）/［Nikon Transfer コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする］（Windows XP）を選んで［OK］をクリックし（Windows XP）、Nikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［このデバイスの場合は常に次の動作を行う］（Windows Vista）/［この動作は常にこのプログラムを使う］（Windows XP）にチェックを入れてください。
- Mac OS Xの場合：
  Nikon Transferのインストールで、［自動起動の設定］を［はい］にした場合は、パソコンでNikon Transferが自動起動します。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 Nikon Transferの起動が終わったら、画像を転送する

- Nikon Transferの［転送開始］ボタンをクリックします。記録されているすべての画像がパソコンに転送されます（Nikon Transferの初期設定）。

- 転送が終わると、転送先のフォルダが自動的に開きます（Nikon Transferの初期設定）。
- Nikon Transferの操作方法については、Nikon Transferのヘルプをご覧ください。

6 転送が終わったら、カメラとパソコンの接続を外す

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 2000 Professionalをお使いの方へ

カードリーダーなどの機器を使って、SDカードの画像をパソコンに転送してください。

2 GB以上のSDカードをお使いの場合は、カードリーダーなどの機器がSDカードに対応している必要があります。

- カードリーダーなどにSDカードを挿入すると、Nikon Transferが自動起動します（Nikon Transferの初期設定）。上記の手順5を参照して、画像を転送してください。
- カメラをパソコンに接続しないでください。接続してしまった場合は、パソコンに［新しいハードウェアの検索ウィザードの開始］と表示されます。［キャンセル（中止）］を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。
- 内蔵メモリーのデータは、カメラで SD カードにコピーしてから（75、115、119）転送してください。

パソコンで画像を表示したり、音声を再生するには

- 画像を保存した転送先のフォルダを開き、OS付属のビューアなどで表示してください。
- 音声データは、QuickTimeなどで再生できます。

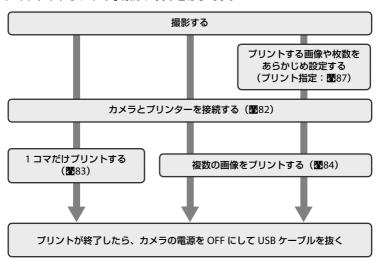
パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker）

- シーンモードの［パノラマアシスト］機能（41）を使って撮影した画像を、Panorama Makerを使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Makerは、付属のSoftware Suite CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Makerをインストールしたら、次のように起動します。
  Windows：
  ［スタート］から［すべてのプログラム］（Windows 2000は［プログラム］）→［ArcSoft Panorama Maker 4］→［Panorama Maker 4］の順にクリックしてください。
  Macintosh：
  ［アプリケーション］フォルダを開き、［Panorama Maker 4］をダブルクリックしてください。
- Panorama Makerの使い方は、Panorama Makerの操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→（140）

プリンターに接続する

PictBridge（158）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、次のとおりです。

電源についてのご注意

- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中でバッテリーが切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P5100へ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

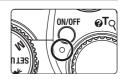
画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に次の方法でプリントできます。

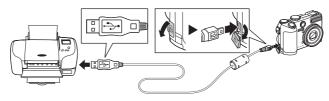
- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

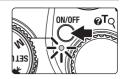
これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、カメラの［プリント指定］メニューを使って、あらかじめSDカードに設定できます（87）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに①の画面が表示された後、［プリント画像選択］画面②が表示されます。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（82）、次の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターの ◀▶ を押してプリントする画像を選び、OKボタンを押す

- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを**W**（⊞）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［プリント枚数設定］を選び、OKボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、OKボタンを押す

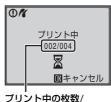
4 ［用紙設定］を選び、OKボタンを押す

5 用紙サイズを選び、OKボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［プリンターの設定］を選びます。

6 ［プリント実行］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（82）、次の手順でプリントしてください。

1 ［プリント画像選択］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［プリントメニュー］画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［用紙設定］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

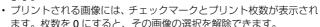
3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［プリンターの設定］を選びます。

4 ［プリント選択］、［全画像プリント］または［DPOFプリント］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。

- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。

- 表示される右の画面で、［プリント実行］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［キャンセル］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 表示される右の画面で、［プリント実行］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［キャンセル］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［プリント指定］（87）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 表示される右の画面で、［プリント実行］を選び、OK ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［キャンセル］を選んで OK ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

- ［画像の確認］を選んで OK ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 OK ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、OKボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

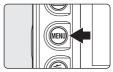
用紙設定について

用紙設定画面では、［プリンターの設定］以外に、［L サイズ］、［2L サイズ］、［ハガキ］、［100×150mm］、［4×6 in.］、［8×10 in.］、［Letter］、［A3 サイズ］、［A4 サイズ］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

SDカードにプリントする画像や枚数を設定する（プリント指定）

DPOF（158）対応のプリンターやプリントサービス店で画像をプリントする際は、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます。
プリント指定で設定した画像の選択やプリント枚数で、カメラをPictBridge対応プリンターに接続してプリントすることもできます。カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます。

1 再生モードでMENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［プリント指定］を選び、OKボタンを押す

3 ［複数画像選択］を選び、OKボタンを押す

4 プリントする画像と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（⊞）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

5 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［日付］を選んで OK ボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［撮影情報］を選んで OK ボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［選択終了］を選んで OK ボタンを押し、設定を有効にします。

［プリント指定］を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［日付］と［撮影情報］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（158）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（86）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［プリント指定］メニューを表示すると、［日付］と［撮影情報］の設定はリセットされますのでご注意ください。

プリント指定をすべて取り消すには

すべての画像に対するプリント指定を取り消すには、手順3で［プリント指定取消］を選び OK ボタンを押します。

日付のプリントについて

プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［日時設定］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［デート写し込み］（126）を使うと、画像に直接日付を写し込んで記録できます。「デート写し込み」した画像は、日付の印字に対応していないプリンターでも「日付」を入れてプリントできます。

デート写し込みした画像は、［プリント指定］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

撮影に関する設定―撮影メニュー

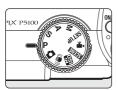
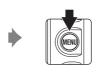
露出モード**P**、**S**、**A**、**M**の撮影メニュー、または高感度モードの高感度メニューには、次の項目があります。

	画質※1	91
	記録時の画質（画像の圧縮率）を選びます。	
	画像サイズ※1、3	92
	記録時の画像の大きさを選びます。	
	仕上がり設定※3	94
	画像の仕上がりを、撮影状況や好みに合わせて設定します。	
WB	**ホワイトバランス**※3	97
	画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	
ISO	**ISO感度設定**※2、3	99
	被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。	
	測光方式	100
	カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。	
	連写※3	101
	連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。	
BKT	**ブラケティング**※3	104
	露出を少しずつずらした連続撮影を設定します。	
	AFエリア選択※3	105
	画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。	
	AF-MODE	107
	ピントの合わせ方を設定します。	
	調光補正	108
	フラッシュの発光量を補正します。	
	発光切り換え	108
	内蔵フラッシュを発光禁止にするかどうかを設定します。	
	ズーム時F値保持	109
	ズームを使うときのF値（絞り値）の変化について設定します。	
NR	**ノイズ低減**※3	109
	低速のシャッタースピードで撮影したときに画像に入るノイズを低減します。	

	コンバーター※3	110
	テレコンバーターやワイドコンバーターを使用するときに、最適な設定が行われるようにコンバーターの種類を選択します。	
	カスタムNo.	111
	ボタンや撮影メニューの設定を2つのカスタムNo.に記憶しておくことができます。	
	カスタムリセット	111
	［カスタムNo.］に記憶されている設定内容を初期設定にリセットします。	
	ゆがみ補正※3	112
	ゆがみを補正するかどうかを設定します。	

※1 その他の撮影モードのメニューでも設定できます（動画メニューを除く）。
※2 高感度メニューでは、設定できません。
※3 これらの機能は、他の機能と同時に設定できないことがあります（112）。

撮影メニュー/高感度メニューの表示方法

モードダイヤルを**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）または（高感度モード）に合わせます。MENUボタンを押して、撮影メニューまたは高感度メニューを表示します。

- モードダイヤルがのときは、高感度メニューを表示します。
- 撮影メニューまたは高感度メニューから撮影に戻るには、MENUボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

メニューの操作について

メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（10）。マルチセレクターの▲▼を押すかわりに、コマンドダイヤルを回してもメニュー項目を選べます。

画質

記録する画像の圧縮率を選びます。
画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

FINE FINE

［NORMAL］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。圧縮率は1/4です。

NORMAL NORMAL（初期設定）

一般的な撮影に適した画質モードです。圧縮率は1/8です。

BASIC BASIC

画質は［NORMAL］よりも低くなりますが、電子メールに添付したりホームページに掲載したりするときに適しています。圧縮率は1/16です。

画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（6～7）。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

関連ページ

記録可能コマ数→93

画像サイズ

記録する画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
画像サイズを小さくすると、電子メールで送ったりホームページで使用するのに適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

画像サイズ	内容
4000× 3000（初期設定）	[3264×2448]、[2592×1944] よりも詳細な画像になります。
3264× 2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
2592× 1944	
2048× 1536	[4000×3000]、[3264×2448]、[2592×1944] よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
1600× 1200	
1280× 960	
1024× 768	パソコンのモニター表示に適した画像サイズです。
640× 480	電子メールへの添付や、テレビへの表示に適した画像サイズです。
3984× 2656	35 mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
3968× 2232	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
2992× 2992	正方形の画像になります。

画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（6～7）。

記録可能コマ数

それぞれの［画像サイズ］（92）と［画質］（91）の組み合わせで、内蔵メモリーや256 MBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約52 MB）	SDカード※1（256 MB）	プリント時のサイズ※2
12M 4000×3000（初期設定）	FINE NORMAL BASIC	9コマ 17コマ 35コマ	約42コマ 約83コマ 約166コマ	約34×25 cm
8M 3264×2448	FINE NORMAL BASIC	13コマ 26コマ 52コマ	約63コマ 約124コマ 約243コマ	約28×21 cm
5M 2592×1944	FINE NORMAL BASIC	21コマ 41コマ 81コマ	約99コマ 約195コマ 約380コマ	約22×16 cm
3M 2048×1536	FINE NORMAL BASIC	33コマ 65コマ 123コマ	約157コマ 約305コマ 約577コマ	約17×13 cm
2M 1600×1200	FINE NORMAL BASIC	54コマ 104コマ 185コマ	約255コマ 約487コマ 約866コマ	約14×10 cm
1M 1280×960	FINE NORMAL BASIC	83コマ 151コマ 277コマ	約390コマ 約709コマ 約1300コマ	約11×8 cm
PC 1024×768	FINE NORMAL BASIC	123コマ 222コマ 370コマ	約577コマ 約1040コマ 約1733コマ	約9×7 cm
TV 640×480	FINE NORMAL BASIC	277コマ 416コマ 666コマ	約1300コマ 約1950コマ 約3121コマ	約5×4 cm
3:2 3984×2656	FINE NORMAL BASIC	10コマ 20コマ 39コマ	約47コマ 約95コマ 約185コマ	約34×22 cm
16:9 3968×2232	FINE NORMAL BASIC	12コマ 24コマ 47コマ	約57コマ 約113コマ 約222コマ	約34×19 cm
1:1 2992×2992	FINE NORMAL BASIC	12コマ 23コマ 46コマ	約56コマ 約112コマ 約219コマ	約25×25 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

仕上がり設定

記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を撮影シーンや好みに合わせて設定します。

標準（初期設定）	
	標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。
ソフトに	
	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。
鮮やかに	
	彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
より鮮やかに	
	彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。
ポートレート	
	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
カスタマイズ	
	仕上がりを自分で細かく設定できます（95）。
白黒	
	白黒写真を撮影したいときに使います（96）。

仕上がり設定の設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。

仕上がり設定についてのご注意

［仕上がり設定］が［標準］、［ソフトに］、［鮮やかに］、［より鮮やかに］、［ポートレート］または［白黒］の［スタンダード］の場合、同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって仕上がり具合は変化します。一連の写真を写すときに同じような仕上がり具合にしたい場合は、［カスタマイズ］を選んで［オート］以外の項目を設定してください。

仕上がり設定の［カスタマイズ］について

仕上がり設定で［カスタマイズ］を選ぶと、次の項目を個別に設定できます。

コントラスト

画像の階調（コントラスト）を設定します。
コントラストを弱くすると軟調な画像になり、強くすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは弱めが、かすんだ遠景の撮影などには強めが適しています。
初期設定は［オート］です。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。
強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。
初期設定は［オート］です。

彩度調整

画像の色の鮮やかさを設定します。
［弱め］にすると鮮やかさが抑えられ、［強め］にするとより鮮やかになります。
初期設定は［オート］です。

輪郭強調についてのご注意

輪郭強調の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

仕上がり設定の［白黒］について

仕上がり設定で［白黒］を選ぶと、次の項目が設定できます。
［スタンダード］を選ぶと標準的な仕上がりになります。［カスタマイズ］を選ぶと、さらに［コントラスト］、［輪郭強調］、［モノクロフィルター］の3種類の項目を個別に設定できます。［カラー同時記録］チェックボックスをオン（✔）にすると、白黒画像と同時にカラー画像も記録します。
［カスタマイズ］では次の項目を個別に設定できます。

コントラスト

［仕上がり設定］→［カスタマイズ］の［コントラスト］（95）と同じです。

輪郭強調

［仕上がり設定］→［カスタマイズ］の［輪郭強調］（95）と同じです。

モノクロフィルター

白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。

［黄］、［オレンジ］、［赤］：
コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。黄→オレンジ→赤の順にコントラストが強くなります。

［緑］：
肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

カラー同時記録について

カラー同時記録で記録されるカラー画像は、［仕上がり設定］を［標準］に設定したときと同じ仕上がりになります。

WB　ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整を行う必要があります。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。

初期設定の［オート］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO	**オート（初期設定）**
	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
PRE	**プリセット Manual（プリセットマニュアル）**
	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（98）をご覧ください。
	晴天
	晴天の屋外での撮影に適しています。
	電球
	白熱電球の下での撮影に適しています。
	蛍光灯
	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
	曇天
	曇り空の屋外での撮影に適しています。
	フラッシュ
	フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（［オート］のときは、何も表示されません）（6）。

［オート］、［フラッシュ］以外を選んだ場合

［オート］、［フラッシュ］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（30）。

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明の下で撮影するときなど、［オート］や［電球］などの設定では望ましい結果が得られない場合に使います（赤みがかった照明の下で撮影した画像を、普通の照明の下で撮影したように見せたいときなど）。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 ［ホワイトバランス］画面からマルチセレクターで［PRE プリセット Manual］を選び、OK ボタンを押す

- レンズが望遠側のズーム位置になります。

3 ［新規設定］を選ぶ

- 前回プリセットしたホワイトバランスを使いたいときは、［前回の設定］を選んでOK ボタンを押してください。ホワイトバランスが前回のプリセット値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を写す

測定窓

5 OK ボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます。
- 画像は記録されません。

プリセットマニュアルについてのご注意

手順5でOK ボタンを押したとき、フラッシュは発光しません。このため、フラッシュ撮影時のホワイトバランスの測定はできません。

ISO感度設定

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当する数値を設定します。ISO感度を高くすると、暗い場所や動いている被写体の撮影に効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

オート（初期設定）

明るい場所ではISO 64になり、暗い場所では自動的にISO 800までISO感度が高くなります。
別売のスピードライト使用時に［オート］に設定すると、ISO感度は400までに制限されます。
モードダイヤルが**M**のときに［オート］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

感度制限オート

カメラが自動的にISO感度を変更するときの範囲を［ISO64-100］（初期設定）、［ISO64-200］、［ISO64-400］から選べます。選んだ範囲の上限値以上にISO感度は上がりません。ISO感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。
モードダイヤルが**M**のときに［感度制限オート］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

64、100、200、400、800、1600、2000、3200

ISO感度を選んだ値に固定します。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。［オート］に設定した場合、ISO 64で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（31）。［感度制限オート］に設定した場合、A＋ISO感度の上限値が表示されます。

ISO感度［3200］についてのご注意

- ［ISO 感度設定］を［3200］にすると、撮影時の画面の画像サイズマークが赤く表示されます。
- ［ISO感度設定］を［3200］にすると、［画像サイズ］の［12M 4000×3000］、［8M 3264×2448］、［3:2 3984×2656］、［16:9 3968×2232］、［1:1 2992×2992］は選べません。これらの画像サイズのときに［ISO感度設定］を［3200］にすると、［5M 2592×1944］に変更されます。［ISO感度設定］を［3200］以外にすると、元の画像サイズに戻ります。
- ［ISO感度設定］を［3200］にすると、マルチ連写（101）はできません。［連写］の設定が［マルチ連写］のときに［ISO感度設定］を［3200］にすると、［単写］になり、［3200］以外に変更しても［単写］のままです。

シャッタースピードについてのご注意

［ISO 感度設定］を［1600］、［2000］、［3200］に設定すると、シャッタースピードが最長2秒までに制限されます。

測光方式

露出を合わせるためにカメラが被写体の明るさを測ることを測光といいます。測光する方式を設定します。

マルチパターン（初期設定）

さまざまな撮影状況で適正な露出が得られるマルチパターン測光になります。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。

中央部重点

画面に表示されている中央部重点測光範囲で測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（27）を使用してください。

スポット

画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（27）を使用してください。

AFスポット

選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。［AFエリア選択］（105）が［中央］以外のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

電子ズームが 1.2 ～ 1.8 倍のときは、［測光モード］は［中央部重点］になります。電子ズームが 2.0 ～ 4.0 倍のときは、［スポット］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。

測光方式表示について

［測光方式］を［中央部重点］または［スポット］に設定すると、測光範囲が液晶モニターに表示されます。

連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。
連写、BSS、マルチ連写に設定すると、フラッシュは発光禁止になります。
インターバル撮影以外は、連写中のピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。

単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間､約1.0コマ/秒で最大5コマまで連写できます（画質がNORMAL、画像サイズが4000×3000のとき）。

BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

フラッシュ連写

シャッターボタンを全押ししている間､約1.0コマ/秒で連続約3コマの内蔵フラッシュを使った連続撮影を行います（画質がNORMAL、画像サイズが4000×3000のとき）。
1セットの連続撮影が終わるたびに、内蔵フラッシュを充電し、充電が終わるまでは、次の撮影はできません。ISO感度を上げて撮影するので、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約1.0コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像（画質がNORMAL、画像サイズが2592×1944）として記録します。

- 電子ズームは使えません。
- ［ISO感度設定］（99）を［3200］にすると、マルチ連写はできません。マルチ連写で撮影するときは、［ISO感度設定］を［3200］以外に設定してから、［連写］の設定を［マルチ連写］にしてください。

インターバル撮影

あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影（最大1800コマ）します（103）。

連写モードの設定は、撮影時の画面で確認できます（［単写］のときは、何も表示されません）（6）。

BSSについてのご注意

BSSは静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

フラッシュ連写についてのご注意

［連写］を［フラッシュ連写］にしているときにスピードライトの電源をONにすると、［単写］に変更されます。

シャッタースピードについてのご注意

［連写］を［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］、［マルチ連写］にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

連写についてのご注意

画質や画像サイズ、SDカードの種類により、最大連写速度が遅くなることがあります。

関連ページ

連写時の内蔵フラッシュ、別売スピードライト（外付けフラッシュ）の使用について→ 114、139

インターバル撮影の使い方

撮影間隔（インターバル）を決めて、静止画を自動的に連続撮影します。
撮影間隔は、［30秒］、［1分］、［5分］、［10分］、［30分］または［60分］に設定できます。

1 ［連写］画面からマルチセレクターで［インターバル撮影］を選び、Ⓚボタンを押す

2 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

3 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー/SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が1,800コマに達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中でバッテリーが切れないように、充分に充電したバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使用すると、家庭用コンセント（AC100V）からCOOLPIX P5100へ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使用しないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

BKT ブラケティング

露出を少しずつずらした連続撮影をカメラが自動的に行います。露出補正を行うのが難しいときに使用すると便利です。

±0.3	±0.3
	0、+0.3、−0.3の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±0.7	±0.7
	0、+0.7、−0.7の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±1.0	±1.0
	0、+1.0、−1.0の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
OFF	**OFF（初期設定）**
	ブラケティングを行いません。

ブラケティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（[OFF] のときは、何も表示されません）（6）。

ブラケティングについてのご注意

- モードダイヤルが**M**の場合、[ブラケティング] は使えません。
- 露出補正（34）と [ブラケティング] の [±0.3]、[±0.7]、[±1.0] のいずれかを同時に設定すると、補正量を加算します。
- [ブラケティング] を [OFF] 以外にすると、シャッタースピードが最長1/2秒までに制限されます。

[+] AFエリア選択

画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。
電子ズーム使用時は、［AFエリア選択］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。

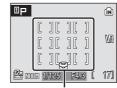
顔認識オート

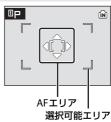
カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→106）。
複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［オート］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

- 液晶モニターをOFFにすると、AFエリアは中央に固定されます。

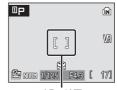
オート（初期設定）

9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます。

- 液晶モニターをOFFにすると、AFエリアは中央に固定されます。

マニュアル

画面内の99カ所から、ピントを合わせたい位置を自分で選びます。
比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。
フラッシュモードやフォーカスモード、セルフタイマー、露出補正の設定を変更するには、OKボタンを押していったんAFエリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。もう一度OKボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。

- ［画像サイズ］（92）が［2992 × 2992］のときは、選べるAFエリアの位置が81ヵ所になります。

[▪]　中央

画面中央の被写体にピントが合います。
AFエリアが画面中央に常に表示されます。

顔認識撮影について

AFエリア選択を［顔認識オート］にしたり、シーンモードを［ポートレート］または［夜景ポートレート］にすると、顔認識機能が働きます。
人物の顔（正面）にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。

1 構図を決める

- カメラが顔（正面）を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。
- 複数の人物の顔を認識したときは、最もカメラに近い人物の顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の人物の顔が一重枠で囲まれます。最大12人の顔を認識します。

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が黄色で点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

顔認識についてのご注意

- ［顔認識オート］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、［AFエリア選択］は、［オート］になります。
- シーンモードの［ポートレート］または［夜景ポートレート］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 液晶モニターがガイド表示のときに［AFエリア選択］を［顔認識オート］にすると、情報ON表示に変更されます。
- 次のような場合は、カメラは人物の顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 人物が横を向いている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどの撮影条件によっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（27）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、オート撮影モードにするか、高感度モード、露出モード**P**、**S**、**A**、**M**でAFエリア選択を［マニュアル］か［中央］に切り換えて、同距離にある別の被写体にピントを合わせるフォーカスロック撮影（27）をお試しください。
- 顔認識して撮影した画像は、1コマ表示およびサムネイル表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→27

AF-MODE（オートフォーカスモード）

ピントの合わせ方を設定します。

シングルAF（初期設定）

シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。

常時AF

撮影中、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。

調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。
別売のスピードライト（外付けフラッシュ）SB-400、SB-600、SB-800（139）をカメラに装着している場合は、スピードライトの発光量を補正します。

－0.3～－2.0

－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。

0（初期設定）

調光補正を行いません。

+0.3～+2.0

0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（［0］のときは、何も表示されません）（6）。

発光切り換え

カメラのアクセサリーシュー（139）に装着した別売スピードライト（外付けフラッシュ）を使わないときも、内蔵フラッシュを発光禁止にするかどうかを設定します。

オート（初期設定）

スピードライト使用時は、スピードライトを発光します。スピードライトを使用しないときは、内蔵フラッシュを発光します。

内蔵発光禁止

内蔵フラッシュを常に発光禁止にします。

発光切り換えについてのご注意

［発光切り換え］が［内蔵発光禁止］の場合、フラッシュモード（30）は［AUTO 自動発光］、［発光禁止］、［強制発光］のみ選べます。

ズーム時F値保持

ズームを使うときのF値（絞り値）の変化について設定します。

ON

モードダイヤルが**A**または**M**のとき、絞り値の変化を最小限に抑えながらズームします。ただし、ズームの位置によっては、絞りの制御範囲を超えてしまうことがあります。F 5.1～F 7.3の範囲内に絞り値をセットしてご使用ください。

OFF（初期設定）

ズーム位置に対応して絞り値が変化します。

NR ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが入る場合があります。このノイズを低減する設定を行います。ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

AUTO　AUTO（初期設定）

ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
[連写]を[単写]および[インターバル撮影]以外、または[ブラケティング]を[OFF]以外にすると、ノイズ低減は行われません。

NR　ON

1/4秒以下の低速シャッタースピードのときに必ずノイズ低減を行います。低速シャッタースピードで撮影するときは、[ON]にすることをおすすめします。
[連写]は[単写]または[インターバル撮影]のみ設定できます。[ブラケティング]は設定できません。

ノイズ低減が行われるときは、撮影時の画面でNRのマークが点灯します（6）。

コンバーター

別売のアダプターリング UR-E20を使用して、ワイドコンバーター WC-E67またはテレコンバーター TC-E3EDを装着する場合に設定します。［テレコンバーター］や［ワイドコンバーター］を選ぶと、それぞれのコンバーターに最適なズームの位置などを設定します。コンバーターの装着方法については、「コンバーターについて」（138）をご覧ください。コンバーターの使用方法の詳細については、各コンバーターの使用説明書をご覧ください。

OFF　OFF（初期設定）

コンバーターを使用しないときに設定します（アダプターリングは必ず取り外してください）。

W　ワイドコンバーター（WC-E67）

ワイドコンバーター WC-E67使用時に設定します。設定するとズームを最も広角側にセットします。ワイドコンバーター WC-E67を使うと、約23.5 mm相当（35 mm判換算の撮影画角）の広角撮影が楽しめます（［ゆがみ補正］を［OFF］にしてズームを最も広角側にしたとき）。光学ズームは全域で使用できますが、ワイドコンバーターの特性上、望遠側では性能が低下します。
電子ズームは使えません。

テレコンバーター（TC-E3ED）

テレコンバーター TC-E3ED使用時に設定します。設定するとズームを最も望遠側にセットします。テレコンバーター TC-E3EDを使うと、約369 mm相当（35 mm判換算の撮影画角）の望遠撮影が楽しめます（ズームを最も望遠側にしたとき）。光学ズームは望遠側に制限されます。
フォーカスモード（33）は設定できません。

コンバーターの設定は、撮影時の画面で確認できます（［OFF］のときは、何も表示されません）（6）。

コンバーターについてのご注意

- 撮影を行う前に、必ず、撮影メニューの［コンバーター］の設定を装着したコンバーターに合わせてください。コンバーターを外して撮影するときは、［コンバーター］を［OFF］にしてください。
- ［コンバーター］が［ワイドコンバーター］または［テレコンバーター］の場合は、内蔵フラッシュが自動的に発光禁止になります。ただし、別売のスピードライト（139）を使うと、フラッシュ撮影ができます。［連写］の［フラッシュ連写］は設定できません。ワイドコンバーターを装着してスピードライトをお使いの場合、ズームの広角側で撮影すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。撮影後に液晶モニターで画像を確認してください。SB-600、SB-800の場合は、ワイドパネルの使用をおすすめします。
- ［コンバーター］が［ワイドコンバーター］または［テレコンバーター］の場合、AF補助光は使えません。

CSM カスタムNo.

2つのカスタムNo.（1、2）に、14種類の撮影メニューや3つのボタン操作の設定を記憶できます。

カスタムNo.ごとに異なる設定をすることで、撮影状況に応じた設定内容に簡単に切り換えられます（各カスタムNo.ごとの設定は、電源をOFFにすると最後に設定した組み合わせで記憶されます）。

カスタムNo.には以下の機能の設定内容を記憶できます。

画質※1	ISO ISO感度設定※3	AFエリア選択※4	ズーム時F値保持
画像サイズ※1	測光方式	AF-MODE	NR ノイズ低減
仕上がり設定	連写	調光補正	コンバーター
WB ホワイトバランス※2	BKT ブラケティング	発光切り換え	ゆがみ補正
（フラッシュモード）	（露出補正）	（フォーカスモード）	

※1 画質と画像サイズには、現在の設定が表示されます。カスタムNo.には記憶されません。
※2 ［プリセットManual］で測定したプリセットホワイトバランスは、カスタムNo.ごとに記憶できません。
※3 高感度モードではISO感度が自動的に設定されるため［AUTO］と表示されます。高感度モード以外の撮影モードに変更すると、元の設定内容が表示されます。
※4 ［マニュアル］にして選んだAFエリアもカスタムNo.に記憶されます。

R カスタムリセット

「はい」を選ぶと、現在選んでいるカスタムNo.に記憶されている設定内容が初期設定にリセットされます。
カスタムNo.に記憶される設定内容については、「カスタムNo.」(111)をご覧ください。

ゆがみ補正

ゆがみを補正するかどうかを設定します。ゆがみを補正すると、ゆがみを補正しない場合に比べて、撮影範囲が狭くなります。

	ON
	レンズの特性で画像周辺部に生じるゆがみを補正します。
OFF	**OFF(初期設定)**
	ゆがみを補正しません。

同時に設定できる機能の制限

露出モード(**P**、**S**、**A**、**M**)および(高感度)モードでは、以下のように、複数の機能を同時に設定できないことがあります。

フラッシュモード
[連写]を[連写]、[BSS]、[マルチ連写]にする、[ブラケティング]を[OFF]以外にする、または[コンバーター]を[ワイドコンバーター]、[テレコンバーター]にすると、フラッシュモードはに固定されます。 [連写]を[フラッシュ連写]にすると、フラッシュモードはに固定されます。 [連写]を[単写]か[インターバル撮影]に戻す、または[ブラケティング]を[OFF]に戻すと、元のフラッシュモードに戻ります。

セルフタイマー
セルフタイマーをONにすると、[連写]は設定にかかわらず、[単写]として動作します。 [ブラケティング]は設定にかかわらず、[OFF]として動作します。 セルフタイマーをOFFにする(またはセルフタイマー撮影が完了する)と、[連写]および[ブラケティング]の設定が有効になります。

フォーカスモード

［連写］を［フラッシュ連写］にすると、フォーカスモードの［▲遠景AF］は選べません。
フォーカスモードが［▲遠景AF］のときに［連写］を［フラッシュ連写］にすると、フォーカスモードは［AF通常AF］に変更されます。
［AFエリア選択］が［顔認識オート］のときにフォーカスモードを［▲遠景AF］にすると、［AFエリア選択］は［オート］に変更されます。フォーカスモードを［▲遠景AF］以外にすると、［顔認識オート］に戻ります。

仕上がり設定

［仕上がり設定］を［白黒］にすると、［ホワイトバランス］は［オート］になります。［仕上がり設定］を［白黒］以外にすると、元の［ホワイトバランス］の設定に戻ります。
［仕上がり設定］の［白黒］で［カラー同時記録］のチェックボックスをオンにすると、［連写］は［単写］に、［ブラケティング］は［OFF］に変更されます。［カラー同時記録］のチェックボックスをオフにしても、［連写］は［単写］、［ブラケティング］は［OFF］のままです。

ISO感度設定

［ISO感度設定］を［3200］にすると、［画像サイズ］の［12M 4000×3000］、［8M 3264×2448］、［3:2 3984×2656］、［16:9 3968×2232］、［1:1 2992×2992］は選べません。
これらの画像サイズのときに［ISO感度設定］を［3200］にすると、［5M 2592×1944］に変更されます。［ISO感度設定］を［3200］以外にすると、元の画像サイズに戻ります。
［ISO感度設定］を［3200］にすると、マルチ連写はできません。［連写］の設定が［マルチ連写］のときに［ISO感度設定］を［3200］にすると、［単写］になり、［3200］以外に変更しても［単写］のままです。

連写

［連写］を［単写］以外にすると、［ブラケティング］は［OFF］に変更されます。［マルチ連写］にすると、［画質］は［NORMAL］、［画像サイズ］は［5M 2592×1944］に変更されます。

ブラケティング

［ブラケティング］を［OFF］以外にすると、［連写］は［単写］に、フラッシュモードは⊗に変更されます。

ノイズ低減

［ノイズ低減］が［AUTO］のときに、［連写］を［単写］または［インターバル撮影］以外にすると、ノイズ低減処理は行われません。また、［ブラケティング］を［OFF］以外にしても、ノイズ低減処理は行われません。［ノイズ低減］を［ON］にすると、［インターバル撮影］以外の連写モードは［単写］に、［ブラケティング］は［OFF］に変更されます。

コンバーター

［コンバーター］を［ワイドコンバーター］または［テレコンバーター］にすると、フラッシュモードは⊛に変更されます。

ゆがみ補正

［ゆがみ補正］を［ON］にすると、［連写］は［単写］に、［ブラケティング］は［OFF］に変更されます。
［ゆがみ補正］を［OFF］に戻しても、［連写］は［単写］のまま、［ブラケティング］は［OFF］のままです。

内蔵フラッシュ、別売スピードライト（外付けフラッシュ）

各連写モードと組み合わせた場合、内蔵フラッシュまたはスピードライトSB-400、SB-600、SB-800の動作は次のように制限されます。

連写モード	内蔵フラッシュ	スピードライト
単写	使用可能	使用可能
連写	発光禁止	使用可能
BSS	発光禁止	使用不可
フラッシュ連写	使用可能	使用不可
マルチ連写	発光禁止	使用可能
インターバル撮影	使用可能	使用可能

別売スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に発光禁止になります。

再生に関する設定—再生メニュー

再生メニューには、以下の項目があります。

🔲	D-ライティング	55
	画像の暗い部分を明るく補正します。	
🖨	プリント指定	87
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
▶	スライドショー	117
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
🗑	削除	118
	画像を削除します。	
🔑	プロテクト設定	118
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
	非表示設定	118
	撮影した画像をカメラで再生できないように設定します。	
	スモールピクチャー	57
	撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。	
	画像コピー	119
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
BK	黒フレーム	58
	撮影した画像に黒い枠を付けた画像を新しく作ります。	

再生メニューの表示方法

▶ボタンを押して再生モードにします。

MENUボタンを押して、再生メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（10）。
- 再生メニューから再生に戻るには、MENUボタンを押します。

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。

- **再生メニュー**:プリント指定(87)、削除(118)、プロテクト設定(118)、非表示設定(118)、画像コピー(119)
- **セットアップメニュー**:オープニング画面(122)

次の手順で画像を選びます。

---

1 マルチセレクターの◀▶を押して、画像を選ぶ

- マルチセレクターの◀▶を押すかわりに、コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- [オープニング画面] の画像選択では、1画像しか選べません。→手順3へ
- ズームレバーを **T**(Q)方向に回すと 1 コマ表示に、**W**(▣)方向に回すと12コマ表示に切り換わります。

---

2 ▲▼を押してON/OFF(またはプリント枚数)を設定する

- ON にすると、選択画像にチェックマークが表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

---

3 Ⓞボタンを押す

- 設定が有効になります。

スライドショー

内蔵メモリー/SDカードに記録した画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［開始］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［開始］を選ぶ前に［インターバル設定］を選んでⓀボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［開始］を選ぶ前に［エンドレス］を選んでⓀボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 再生中にⓀボタンを押すと一時停止します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中に［終了］を選び、Ⓚ ボタンを押すと再生メニューに戻ります。［再開］を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（70）は1フレーム目だけを表示します。
- ［エンドレス］で再生していても、何も操作しないで約30分経過すると、液晶モニターが消灯します。何も操作しないまま、さらに約3分経過すると、電源がOFFになります。

削除

画像を削除します。

削除画像選択
画像選択画面（116）で、画像を選んで削除します。
全画像削除
すべての画像を削除します。

画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せないため、ご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- マークが表示されている画像は、プロテクト（保護）されているので削除されません。

プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます（操作方法→116）。
ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、131）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

プロテクト設定した画像は、1コマ表示と削除画像選択画面でマーク（7）が、4コマまたは9コマサムネイル表示でマーク（51）が表示されます。

非表示設定

撮影した画像をカメラで再生できないように設定します。
操作方法→116
非表示設定した画像は［削除］では削除されません。ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、131）すると、非表示設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- IN➔◻：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
  ◻➔IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- 選択画像コピー： 画像選択画面（116）で、画像を選んでコピーします。
  全画像コピー： すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできる画像ファイルの形式は、JPEG、AVI、WAV です。これ以外の形式の画像ファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（59）も画像と同時にコピーしますが、「音声レコード機能」（71）で録音したデータはコピーできません。音声レコードのデータは、［音声データコピー］でコピーできます（75）。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［プリント指定］（87）を行った画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［プロテクト設定］（118）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。
- ［非表示設定］（118）した画像はコピーできません。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［撮影画像がありません］と表示されますが、MENUボタンを押すと［画像コピー］画面が表示され、内蔵メモリーの画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダ名→140

カメラに関する基本設定—セットアップメニュー

セットアップメニューには、以下の項目があります。

MENU	**メニュー切り換え**	121
	メニューの表示形式を切り換えます。	
	オープニング画面	122
	電源をONにしたときに表示される「オープニング画面」について設定します。	
	日時設定	123
	内蔵時計を合わせます。	
	画面の明るさ	126
	画面の明るさを調整します。	
DATE	**デート写し込み**	126
	画像に撮影日時を写し込む設定を行います。	
VR	**手ブレ補正**	128
	撮影時の手ブレ補正を設定します。	
	AF補助光	129
	AF補助光の点灯/非点灯を設定します。	
	電子ズーム	129
	電子ズームの動作を設定します。	
	操作音	130
	操作音について設定します。	
	オートパワーオフ	130
	待機状態に入るまでの時間を設定します。	
IN/	**メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット）**	131
	内蔵メモリー /SDカードを初期化します。	
	言語/LANGUAGE	132
	画面に表示する言語を設定します。	
	ビデオ出力	132
	テレビとの接続に必要な設定を行います。	
Fn	**FUNCボタン設定**	132
	Fn（ファンクション）ボタンを押したときの動作を設定します。	
C	**設定クリアー**	133
	各種設定を初期状態に戻します。	
Ver.	**バージョン情報**	135
	ファームウェアの情報を表示します。	

セットアップメニューの表示方法

モードダイヤルを**SET UP**に合わせると、セットアップメニューが表示されます。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（10）。
- セットアップメニューを終了するには、モードダイヤルを他のモードに合わせます。

メニュー切り換え

メニューの表示方法を切り換えます。

文字タイプ（初期設定）

メニュー名を一覧表示します。

アイコンタイプ

メニューの全項目を1画面に表示できます。

オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに液晶モニターに表示するオープニング画面を設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しません。

COOLPIX

オープニング画面を表示します。

撮影した画像

内蔵メモリー/SDカードの画像を、オープニング画面として登録できます。画像選択の画面で画像を選び（116）、ボタンを押します。
登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。

- ［画像サイズ］（92）を［3984 × 2656］、［3968 × 2232］、［2992 × 2992］にして撮影した画像、およびスモールピクチャー（57）で作成した 160 × 120 サイズの画像は選べません。

⊕ 日時設定

カメラに内蔵された時計を設定します。
海外旅行などに便利なワールドタイム（時差を自動的に計算する機能）も設定できます。

日時
内蔵時計の日付と時刻を設定します。 **設定方法については「表示言語と日時を設定する」の手順6、7（19）をご覧ください。**
ワールドタイム
自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）の設定や変更を行います。また、訪問先のタイムゾーン（✈）を登録すると、自宅（⌂）との時差（125）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［ワールドタイム］を選び、Ⓞボタンを押す

- ［ワールドタイム］画面が表示されます。

2 ✈（訪問先）を選び、Ⓞボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域でお使いになる場合は、マルチセレクターで［夏時間］を選んでⓄボタンを押し（時間が1時間進みます）、▲を押します。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

3 マルチセレクターの▶を押す

- ［訪問先の設定］画面が表示されます。

4 訪問先の地域を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の地域が切り換わります。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

日時設定についてのご注意

カメラの内蔵時計は、カメラのバッテリーとは別の時計用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるか別売のACアダプター EH-62Aを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂（自宅）マークを選んでください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂（自宅）マークを選び、✈（訪問先）と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

- 夏時間（サマータイム）が実施されていないときに日時設定した場合：
  日時設定後に夏時間が実施された場合は、［夏時間］のチェックボックスをオン［✔］にすると、カメラの時刻が1時間進みます。
- 夏時間の実施中に［夏時間］のチェックボックスをオン［✔］にして日時設定した場合：
  日時設定後に夏時間の期間が終了したときは、［夏時間］のチェックボックスをオフにすると、カメラの時刻が1時間戻ります。

タイムゾーンについて（☞19）

タイムゾーンと時差の関係は以下の表のとおりです。以下にない時差の場合は、［日時設定］で正確な時刻に合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix, La Paz（デンバー、フェニックス、ラパス）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）
–13	Caracas, Manaus（カラカス、マナウス）
–12	Buenos Aires, SaoPaulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）
–10	Azores（アゾレス）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）

時差 +/–	タイムゾーン
–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–7	Athens, Helsinki（アテネ、ヘルシンキ）
–6	Moscow, Nairobi（モスクワ、ナイロビ）
–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調整できます。初期設定は［3］です。

デート写し込み

画像に直接日時を写し込みます。日付の印字（88）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

OFF（初期設定）

日付、時刻のどちらも写し込みません。

年・月・日

撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。

年・月・日・時刻

撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。

誕生日カウンター

お子様の成長記録や植物の観察日記などに便利な機能です。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（［OFF］のときは、何も表示されません）（6）。

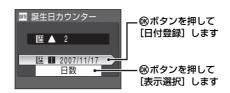
デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- ［画像サイズ］（92）が［640×480］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは［1024×768］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［日時設定］（18、123）での設定と同じになります。
- 一部の撮影モードでは、日時を写し込めません（151）。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［デート写し込み］で日時を写し込んでいない画像でも、［プリント指定］（87）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

誕生日カウンターの使い方

撮影日と一緒に、誕生日など特定の日付から撮影日までの日数を写し込めます。誕生日や結婚式までの日数をカウントダウン形式で入れたり、お子様が産まれた日からの経過日数を入れるときなどに使います。

日付登録

1～3のいずれかを選んでマルチセレクターの▶を押すと、［日付設定］画面が表示されます。「表示言語と日時を設定する」の手順6（19）と同様の操作で日付を設定後、Ⓞ ボタンを押してください。日付は3種類まで登録できます。他の日付に切り換えるには、1～3のいずれかを選んで、Ⓞ ボタンを押してください。

表示選択

特定の日までの日数の表示形式を選んでⓄ ボタンを押してください。

誕生日カウンターを使って撮影した画像には、以下のように日付が写し込まれます。

記念日まであと 2 日の場合

記念日から 2 日後の場合

VR　手ブレ補正

手ブレ補正機能は、望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを効果的に補正します。手ブレ補正機能はすべての撮影モードで使用できます。
ブレ軽減モード（43）にすると、手ブレ補正の設定に関係なく、手ブレ補正ON として動作します。

ON（初期設定）

静止画撮影だけでなく、動画撮影時の手ブレも補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。
たとえば、横方向に流し撮りを行うときは縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りを行うときには横方向の手ブレだけが補正されます。

OFF

手ブレ補正を行いません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（［OFF］のときは、何も表示されません）（6）。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 三脚でカメラを固定させて撮影する場合には、［手ブレ補正］を［OFF］にしてください。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。
- ［VR］はVibration Reductionの略称です。

AF補助光

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。ただし、［AUTO］に設定していても、一部のシーンモードではAF補助光が点灯しません。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがありますので、ご注意ください。

電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）（拡大）方向に回すと、電子ズーム（25）が作動します。

クロップ

電子ズームによる画像の劣化が発生しない範囲内に電子ズームの倍率を制限します。

OFF

電子ズームは作動しません（動画撮影時を除く）。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（105）が［中央］に固定されます。
- 次の場合は電子ズームを使用できません。
  - シーンモードが（ポートレート）、（夜景ポートレート）のとき
  - ［連写］（101）が［マルチ連写］のとき
  - ［コンバーター］（110）が［ワイドコンバーター］のとき
  - 動画撮影開始前（微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動）
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［測光モード］は［中央部重点］に、2.0～4.0倍のときには［スポット］になります。

操作音

操作音について設定します。

設定音

オープニング音、設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）および警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）のON（初期設定）/OFFを設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音のON（初期設定）/OFFを設定します。

オートパワーオフ

電源をONにしたまま何も操作しないで一定時間が過ぎると、カメラはバッテリーの消耗を抑えるために液晶モニターを消灯し、待機状態（23）に入ります。待機状態になると、電源ランプが点滅し、何も操作しないでさらに約3分経過すると、自動的に電源がOFFになります。
このメニューでは、カメラが待機状態に入るまでの時間を［30秒］、［1分］（初期設定）、［5分］、または［30分］から選べます。

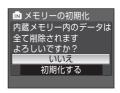
オートパワーオフについてのご注意

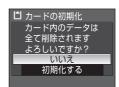
以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。
- メニュー表示中：3分
- スライドショーのエンドレス再生中、別売のACアダプターEH-62Aを接続中：30分

/　メモリー /カードの初期化（フォーマット）

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［メモリーの初期化］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［カードの初期化］が表示されます。

初期化についてのご注意

- 内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをCOOLPIX P5100で初めて使うときは、このカメラで初期化してからお使いください。

言語/LANGUAGE

画面に表示される言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

ビデオ出力

テレビとの接続に必要な設定を行います。
ビデオの出力方式を［NTSC］と［PAL］から選べます。［NTSC］と［PAL］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

FUNCボタン設定

モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のときの**Fn**（ファンクション）ボタンの役割を変更できます。
Fnボタンを押すと、FUNCボタン設定で割り当てた撮影メニューの項目が撮影画面に表示されます。
Fnボタンを押したままコマンドダイヤルを回して項目を選び、**Fn**ボタンから指を離すだけで項目を設定できます。
Fnボタンには、以下の撮影メニューのいずれかを割り当てられます。

ISO感度設定（99）（初期設定）	画質（91）	画像サイズ（92）
ホワイトバランス※（97）	AFエリア選択（105）	連写（101）
ゆがみ補正（112）	コンバーター（110）	手ブレ補正（128）
カスタムNo.（111）		

※［プリセットManual］を選ぶと、「プリセットマニュアルの使い方」の手順3（98）の画面が表示されます。

設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（30）	自動発光
セルフタイマー（32）	OFF
フォーカスモード（33）	通常AF
露出補正（34）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（35）	ポートレート

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（65）	テレビ再生640★
微速度撮影のインターバル設定（68）	30秒
AF-MODE（67）	シングルAF

撮影メニュー

項目	初期設定
画質（91）	NORMAL
画像サイズ（92）	4000×3000
仕上がり設定（94）	標準
仕上がり設定のカスタマイズ（95）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート 彩度調整：オート
仕上がり設定の白黒のカスタマイズ（96）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート モノクロフィルター：OFF
ホワイトバランス（97）	オート

ISO感度設定（99）	オート
感度制限オート（99）	ISO 64-100
測光方式（100）	マルチパターン
連写（101）	単写
インターバル撮影のインターバル設定（103）	30秒
ブラケティング（104）	OFF
AFエリア選択（105）	オート
AF-MODE（107）	シングルAF
調光補正（108）	0
発光切り換え（108）	オート
ズーム時F値保持（109）	OFF
ノイズ低減（109）	AUTO
コンバーター（110）	OFF
ゆがみ補正（112）	OFF

セットアップメニュー

項目	初期設定
メニュー切り換え（121）	文字タイプ
オープニング画面（122）	なし
画面の明るさ（126）	3
デート写し込み（126）	OFF
手ブレ補正（128）	ON
AF補助光（129）	AUTO
電子ズーム（129）	ON
設定音（130）	ON
シャッター音（130）	ON
オートパワーオフ（130）	1分
FUNCボタン設定（132）	ISO感度設定

その他

項目	初期設定
用紙設定（83、84）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（117）	3秒

- ［設定クリアー］を行うと、ファイル番号の連番（140）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。
  ファイル名の連番を0001に戻したいときは、内蔵メモリー /SDカード内の画像をすべて削除（118）してから、［設定クリアー］を行ってください。
- 以下のメニューの項目は、［設定クリアー］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：
  プリセットマニュアルで測定したホワイトバランスのプリセット値（98）
  セットアップメニュー：
  ［日時設定］（123）、［誕生日カウンター］の登録日（127）、［言語/LANGUAGE］（132）、［ビデオ出力］（132）

Ver. バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5
充電器	バッテリーチャージャー MH-61※
ACアダプター	ACアダプター EH-62A※ ＜EH-62Aの取り付け方＞ 1　2　3 バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、ACアダプターのコードがバッテリー室の溝に入っていることを必ず確認してください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーを破損する恐れがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP14
コンバーターレンズ（アダプターリング UR-E20が必要です。）	ワイドコンバーター WC-E67（0.67倍） テレコンバーター TC-E3ED（3倍）
アダプターリング	アダプターリング UR-E20
スピードライト（外付けフラッシュ）	ニコンスピードライト SB-400、SB-600、SB-800

※ 日本国内専用電源コード（AC100V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

✔ コンバーターまたはアダプターリング使用時のご注意

コンバーターまたはアダプターリングの先端に、フィルターやレンズフードを取り付けないでください。フィルターやレンズフードを取り付けて撮影すると、画像の周辺が暗くなります。

推奨SDカード一覧

以下のSDカードの動作を確認しています。

SanDisk社製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ：512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 20 MB/sの高速転送タイプ：1 GB、2 GB※1
東芝製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ：256 MB、512 MB、1 GB 20 MB/sの高速転送タイプ：512 MB、1 GB、2 GB※1
松下電器（Panasonic）製	128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2 10 MB/sの高速転送タイプ：4 GB※1、2 20 MB/sの高速転送タイプ：512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※1、2
Nikon製	10 MB/sの高速転送タイプ：1 GB

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がこれらのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格 に対応しています。

上記カードの機能、動作の詳細については、各カードメーカーにお問い合わせください。
最新の動作確認済みSDカードについては、当社ホームページのサポート情報をご覧ください。

付録

コンバーターについて

このカメラには、別売のワイドコンバーター WC-E67 またはテレコンバーター TC-E3EDを取り付けられます。コンバーターは以下の手順で取り付けてください。※

※ イラストはワイドコンバーター WC-E67を使用しています。手順はテレコンバーター TC-E3EDも同じです。

1 カメラの電源を OFF にしてから、カメラのレンズリングを図の方向に回して外す

2 コンバーターのリアキャップを外す

3 カメラに別売のアダプターリング UR-E20を取り付け（①）、そのリングの前面にコンバーターをねじ込む（②）

4 モードダイヤルを**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）または高感度モードアイコン（高感度モード）に切り換えて、撮影メニューの［コンバーター］（参照アイコン110）をカメラに装着したコンバーターの種類に合わせる

5 コンバーターのフロントキャップを外す

- コンバーターを取り外すときは、カメラの電源をOFFにして、上記と逆の手順で行います。コンバーターを取り外した後は、［コンバーター］（参照アイコン110）の設定を［OFF］に戻してください。
- コンバーターの使用方法の詳細は、各コンバーターの使用説明書をご覧ください。

別売のスピードライト（外付けフラッシュ）について

このカメラは、別売のニコン製スピードライト SB-400、SB-600、SB-800を直接取り付けられるアクセサリーシューを備えています。内蔵フラッシュでは充分に照明できないときなどに、スピードライトを使うと効果的です。スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に発光禁止になります。液晶モニターに マーク（別売スピードライト表示）が点灯している間は、スピードライトのフラッシュモードを表示し、内蔵フラッシュと同じ操作で設定できます（30）。

- スピードライトを取り付けるときは、カメラのアクセサリーシューカバーを外してください。アクセサリーシューカバーは、右図の矢印の方向に押してスライドさせると外れます。
- スピードライトの取り付け方法、使用方法の詳細は、各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- スピードライトを使わないときは、アクセサリーシューカバーをカメラに取り付けてください。

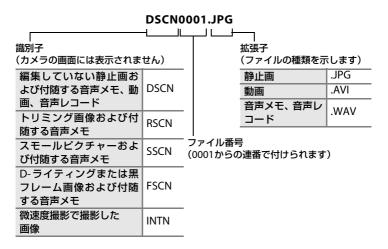
スピードライト SB-400、SB-600、SB-800について

- SB-400、SB-600、SB-800にはセーフティロックピンが付いています。セーフティロック機構（ロック穴）を備えているこのカメラのアクセサリーシューに取り付けると、スピードライトが不用意に外れることを防止できます。
- スピードライトの「スタンバイ」機能は、撮影時のカメラの電源ONと連動します。レディライトの点灯はスピードライト側でご確認ください。
- このカメラにSB-600またはSB-800を取り付けて使用するときは、撮影前にスピードライトの発光モードをTTLにセットしてください。発光の前に少量発光を行うi-TTL調光（スタンダードi-TTL調光）が可能になります。i-TTL調光についての詳しい説明は、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- このカメラでは、SB-600およびSB-800のアドバンストワイヤレスライティング（ワイヤレス増灯）、発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、FVロック撮影、マルチエリアアクティブ補助光の各機能は使えません。
- SB-600およびSB-800のオートパワーズーム機能を使用すると、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的にセットされます。
- SB-600およびSB-800使用時に、2 mより近くにある被写体をズームの広角側で撮影すると、画像の周辺が暗くなることがあります。その場合は、ワイドパネルをお使いください。

記録データのファイル名とフォルダ名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声ファイルには、以下のようなファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画、音声レコード	DSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
スモールピクチャーおよび付随する音声メモ	SSCN
D-ライティングまたは黒フレーム画像および付随する音声メモ	FSCN
微速度撮影で撮影した画像	INTN

拡張子	
静止画	.JPG
動画	.AVI
音声メモ、音声レコード	.WAV

- ファイルを保存するフォルダは、「フォルダ番号＋NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダ内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダ内のファイル番号が9999に達したときも新しいフォルダが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- 音声レコード（71）のデータは「SOUND」フォルダに保存されます。
- パノラマアシストモード（41）では、撮影のたびに「フォルダ番号＋P_XXX」という名前のフォルダ（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（103）では撮影のたびに「フォルダ番号＋INTVL」という名前のフォルダ（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

- 画像データや音声データを内蔵メモリーとSDカードの間でコピーする場合（☞75、119）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」または「選択データコピー」：
    使用中のフォルダ（または次回の撮影で使われるフォルダ）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」または「全データコピー」：
    データはフォルダごとにコピーされます。フォルダ名は「コピー先の最大フォルダ番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダ番号が999のときにファイル数が200個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（☞131）してください。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ/ファインダー

レンズやファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。次の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60 %を超える場所

付録

他社製のスピードライトについてのご注意

他社製スピードライト（カメラのアクセサリーシューにマイナス電圧や250 V以上の電圧がかかるものや小さな接点が触れてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけではなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズやレンズバリアーに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には

カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニター表面の保護アクリルが傷つく原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアーについて

明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに色のついた光の帯が表れることがあります。この現象をスミアー現象といいますが、故障ではありません。撮影した画像（動画を除く）に影響はありません。

● セルフタイマーランプ/AF補助光について

セルフタイマーランプ/AF補助光（4、32、129）に使用されているLED（発光ダイオード）は、右記のIEC規格に準拠しています。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。充電は室温（5～35℃）で行ってください。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーをお使いになると、カメラが作動しないことがあります。低温時に撮影する場合は充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互にお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻るとお使いいただける場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。

● 残量について

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- お使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使用できなくなるおそれがあります。
- バッテリーをしばらくお使いにならないときは、使い切った状態で保管してください。
- 長期間保管するときは、年に1回程度、充電してから使い切り、保管してください。
- 付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25 ℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは、再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力ください。端子部にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へご持参ください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	参照ページ
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	123
	電池の残量が少なくなりました。	バッテリーを充電または交換する準備をしてください。	14、16
電池残量がありません	電池の残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	14、16
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消灯するまでお待ちください。	27
カードがロックされています	SD カードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	21
このカードは使用できません カードに異常があります	SD カードへのアクセス異常です。	・動作確認済みのカードを使ってください。 ・カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 ・カードが正しく挿入されているか確認してください。	137 20 20
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ いいえ はい	SDカードが、COOLPIX P5100用に初期化されていません。	［はい］を選んでOKボタンを押し、SDカードを初期化してください。	21
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	・画質または画像サイズを変更してください。 ・不要な画像や音声データを削除してください。 ・SDカードを交換してください。 ・SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	91、92 28、70、74、118 20 21

表示	意味	対処法	
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	131
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	20 131
	オープニング画面に登録できない画像です。	トリミングやスモールピクチャーで作成した画像で、画像サイズが320×240以下のもの、および［画像サイズ］を［3648×2432］または［3584×2016］にして撮影した画像は、登録できません。	56、57、92
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	118
音声を登録できません	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	20 131
この画像は編集できません	D-ライティングやトリミング、スモール ピクチャー、黒フレームができない画像を編集しようとしました。	• 画像サイズによっては黒フレーム以外の編集ができません。 • 編集の種類によっては、2回目の編集ができません。D-ライティング、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームが可能な条件を確認してください。 • 動画は編集できません。	54 54 –
動画記録できません	SDカードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	137
撮影画像がありません	• 撮影済みの画像または録音済みの音声データがありません。	–	–
音声データがありません	• SDカードに画像または音声データが入っていません。	内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENUボタンを押してください。[画像コピー]または[音声データコピー]画面が表示されます。	119、75

表示	意味	対処法	📖
❶ このファイルは表示できません	パソコンや他社のカメラで作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。	–
ⓘ このデータは再生できません			
❶ 表示可能な画像がありません	• カレンダーモード/撮影日一覧モードで表示しようとした画像が、日時未設定です。	–	–
	• 内蔵メモリー/SDカード内の画像がすべて非表示設定されています。	[非表示設定]で画像の非表示設定を解除してください。	118
❶ このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	118
❶ 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	125
ⓘ モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	8
レンズエラー ❗	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	22
ⓘ 通信エラー	パソコンやプリンターとの通信中に、USBケーブルが外れました。	パソコンに警告メッセージが表示されたときは、[OK]をクリックしてNikon Transferを終了してください。カメラの電源をOFFにしてケーブルを再接続してから、もう一度転送してください。	78、82

表示	意味	対処法	📖
システムエラー ❶	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	16、22
プリンターエラー プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー 用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー 紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー 用紙がありません	用紙がセットされていません	指定したサイズの用紙をセットした後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［継続］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［キャンセル］を選んで㊍ボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※ プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。シャッターボタンを半押ししてください。 • 液晶モニターが消灯しています。[ロ]（モニター）ボタンを押して液晶モニターを点灯してください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。充電が完了するまでお待ちください。 • カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがAVケーブルで接続されています。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	22 22 23、26 12 31 77 76
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、ファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。 • 節電機能により液晶モニターが暗くなっています。	24 126 142 23
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 操作しない状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	22 23 144
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に時計マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時や音声レコードの録音日時が「2007/09/01 00:00」と記録されます。［セットアップ］メニューの［日時設定］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	18 123
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、[ロ]（モニター）ボタンを押してください。	12
［デート写し込み］が選べない	セットアップメニュー［日時設定］が設定されていません。	18、123

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
［デート写し込み］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	以下の場合は日付が写し込まれません。 • シーンモードが［スポーツ］、［ミュージアム］または［パノラマアシスト］になっているとき • 撮影メニューの［連写］が［連写］、［フラッシュ連写］または［BSS］のとき、［ブラケティング］が［OFF］以外のとき • ブレ軽減モードのとき • 動画	37、39、41 101、104 43 64
設定内容が初期状態に戻ってしまった	バックアップ電池が切れたため、設定がリセットされました。	124

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	28 11 22 31
ピントが合わない	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［AF補助光］を［AUTO］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体がAF エリア内に入っていません。 • 電源を入れ直してください。	27 129 26、105 22

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • ブレ軽減モードで撮影してください。 • 高感度モードで撮影してください。 • 手ブレ補正機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。 • カメラに装着したコンバーターと［コンバーター］の設定が異なっています。撮影の前に必ず［コンバーター］の設定を確認してください。	30 43 44 128 101 32 110
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	30
内蔵フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • フォーカスモードが▲（遠景 AF）になっています。 • ブレ軽減モードになっています。 • 🎥モード（［微速度撮影］を除く）になっています。 • 撮影メニュー［連写］が［連写］、［BSS］または［マルチ連写］になっています。 • 撮影メニュー［ブラケティング］が［OFF］以外になっています。 • 撮影メニュー［コンバーター］が［OFF］以外になっています。 • 撮影メニュー［発光切り換え］が［内蔵発光禁止］になっています。 • 別売のスピードライト（外付けフラッシュ）使用時は、内蔵フラッシュは発光しません。	30 35 33 43 64 101 104 110 108 139
光学ズームが使えない	動画撮影中は使えません。	64
電子ズームが使えない	以下の場合、電子ズームは使えません。 • シーンモードが［ポートレート］、［夜景ポートレート］のとき • 動画の撮影開始前 • 撮影メニュー［連写］が［マルチ連写］のとき • セットアップメニュー［電子ズーム］が［OFF］のとき	 36、37 64 101 129
［画像サイズ］が選べない	• 撮影メニュー［連写］が［マルチ連写］のときは、設定できません。 • 撮影メニュー［ISO感度］が［3200］のとき、［12M 4000×3000］、［8M 3264×2448］、［3:2 3984×2656］、［16:9 3968×2232］、［1:1 2992×2992］は選べません。	101 99

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［操作音］の［シャッター音］が［OFF］になっています。 • 撮影メニュー［連写］が［連写］、［BSS］、［フラッシュ連写］または［マルチ連写］になっています。 • 撮影メニュー［ブラケティング］が［OFF］以外になっています。 • シーンモードが［スポーツ］または［ミュージアム］になっています。 • ブレ軽減モードまたは 🎥 モードになっています。	130 101 37、39 43、64
AF補助光が発光しない	• セットアップメニュー［AF補助光］が［OFF］になっています。 • 一部のシーンモードでは発光しません。	129 36～41
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	142
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	97
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低いISO感度にしてください。 • 撮影状況に合わせて、撮影メニュー［ノイズ低減］を設定してください。 • ノイズ低減機能付きのシーンモードで撮影してください。	30 99 109 37
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • 高感度モードにするか、ISO感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。シーンモードの［逆光］にするか、フラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	30 24 30 34 44、99 30、40
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	34
赤目以外の部分が補正された	⚡◉（赤目軽減自動発光）やシーンモードの［夜景ポートレート］の赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［夜景ポートレート］以外の撮影モードで、フラッシュモードを［赤目軽減自動発光］以外にして撮影してください。	30、37
連写できない	撮影メニュー［ノイズ低減］が［ON］になっています。	109
マルチ連写できない	［ISO感度設定］を［3200］にすると、マルチ連写はできません。 マルチ連写で撮影するときは、［ISO感度設定］を［3200］以外に設定してから、［連写］の設定を［マルチ連写］にしてください。	99、101

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダ名が変更されました。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	–
画像の拡大表示ができない	動画やスモールピクチャー、320×240以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。	–
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラ以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラでは再生できません。	70 59
D-ライティング、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームができない	• 動画は編集できません。 • ［画像サイズ］を［3:2 3984 × 2448］、［16:9 3968 × 2232］、［1:1 2992 × 2992］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。 • D-ライティング、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームが可能な条件を確認してください。 • このカメラ以外で撮影した画像は編集できません。 • このカメラで編集した画像をこのカメラ以外で再生するときの動作は保証していません。	70 92 54 – –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［ビデオ出力］が正しく設定されていません。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	132 20
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transferが自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • Nikon Transfer が自動起動しない設定になっています。 • パソコンの OS が Windows 2000 Professional の場合は、カメラを接続できません。 Nikon Transferについては、Nikon Transferのヘルプをご参照ください。	22 22 78 — — 79
プリントする画像が表示されない	画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像をプリントするときはSDカードを取り出してください。	20
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」を行うことができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	83、84

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P5100

型式		コンパクトデジタルカメラ
有効画素数		12.1 メガピクセル
撮像素子		1/1.72型原色CCD、総画素数12.43 メガピクセル
レンズ		光学3.5倍 ズームニッコールレンズ
	焦点距離	7.5–26.3 mm（35mm判換算35–123mm相当の撮影画角）
	絞り	F2.7–5.3
	レンズ構成	6群7枚
電子ズーム		最大4倍（35mm判換算で約492mm相当の撮影画角）
手ブレ補正		レンズシフト方式
オートフォーカス		コントラスト検出方式、マルチエリアAF可能
	撮影距離	• レンズ前約 30 cm ～∞ • マクロ AF 時は約 4 cm（ズームの広角側）～∞
	AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）
	AF補助光	クラス1 LED製品（IEC 60285-1 Edition 1.2-2001） 最大出力値1500 μW
ファインダー		実像式光学ズームファインダー、LED表示
	視野率	上下左右とも約80 %（対実画面）
液晶モニター		広視野角2.5型TFT液晶、反射防止コート付き、230,000 ドット 輝度調節機能付き（5段階）
	視野率（撮影時）	上下左右とも約97 %（対実画面）
	視野率（再生時）	上下左右とも約100 %（対実画面）
記録形式		
	記録媒体	内蔵メモリー（約52 MB）、SDメモリーカード
	画像ファイル	DCF、Exif2.2、DPOF準拠
	ファイル形式	圧縮：JPEG-Baseline準拠 FINE（約1/4圧縮）、NORMAL（約1/8圧縮）、BASIC（約1/16圧縮） 動画：AVI 音声：WAV
画像サイズ（記録画素数）		• 4000 × 3000 ［12 M］ • 3264 × 2448 ［8 M］ • 2592 × 1944 ［5 M］ • 2048 × 1536 ［3 M］ • 1600 × 1200 ［2 M］ • 1280 × 960 ［1 M］ • 1024 × 768 ［PC］ • 640 × 480 ［TV］ • 3984 × 2656 ［3:2］ • 3968 × 2232 ［16:9］ • 2992 × 2992 ［1:1］
ISO感度（標準出力感度）		ISO 64、100、200、400、800、1600、2000、3200、オート（ISO 64～800）、感度制限オート（100、200、400）

付録

項目		仕様
露出		
	測光方式	マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光（99点AF対応）
	露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、ブラケティング、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
	露出連動範囲（ISO 100）	広角側：–1.0～+17.5 EV 望遠側：+0.9～+16.4 EV
シャッター		メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
	シャッタースピード	1/2000～8秒
絞り		6枚羽根虹彩絞り
	制御段数	10（1/3 EVステップ）
セルフタイマー		約10秒、約3秒
内蔵フラッシュ		
	調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.3～8.0 m（広角側） 約0.3～4.0 m（望遠側）
	調光方式	自動調光制御
アクセサリーシュー		ホットシュー（ISO 518）、セーフティーロック機構（ロック穴）付き
	シンクロ接点	X接点のみ
インターフェース		USB
	通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力		NTSC、PALから選択可能
入出力端子		デジタル端子/オーディオビデオ（AV）出力端子
言語		日本語、英語の2言語
電源		Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池：付属）×1個 ACアダプター EH-62A（別売）
撮影可能コマ数（電池寿命）※		約240コマ（EN-EL5使用時）
寸法（幅×高さ×奥行き）		約98×64.5×41 mm（突起部除く）
質量		約200 g（バッテリー、SDメモリーカード除く）
動作環境		
	使用温度	0～40 ℃
	使用湿度	85 %以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリーEN-EL5をフル充電で使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［NORMAL］、画像サイズ［12M 4000×3000］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動することがあります。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC3.7V/1100 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法 （幅×高さ×奥行き）	約36×54×8 mm（突起部除く）
質量	約30 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-61

入力定格	100–240V AC、50/60 Hz、0.12–0.08 A
定格入力容量	11–16VA
定格出力	DC 4.2V/ 950 mA
適応充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5
充電時間	約2時間 ※残量のない状態からの充電時間
使用温度	0～40 ℃
寸法 （幅×高さ×奥行き）	約67×26×67 mm（突起部除く）
電源コード	長さ約2 m、日本国内専用AC100V 対応
質量	約70 g（電源コードを除く）

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.2：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの使用説明書をご参照ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

英数・マーク

ア

カ

サ

タ

ナ

付録

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】

太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　　　年　　月　　日

お買い上げ日：　　　　年　　月　　日

製品名：　　　　シリアル番号：

フリガナ
お名前：

連絡先ご住所：□自宅　□会社

〒

TEL:

FAX:

ご使用のパソコンの機種名：

メモリー容量：　　　　ハードディスクの空き容量：

OS のバージョン：　　　　ご使用のインターフェースカード名：

その他接続している周辺機器名：

ご使用のアプリケーションソフト名：

ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：

問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度：
（おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休業等を除く毎日）
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、（03）5977-7033 におかけください。
FAXでのご相談は、（03）5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/service/repair/index.htm

＜インターネットをご利用できない方の修理品送り先＞

ニコンカメラ販売（株）修理センター　〒230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26　電話：（045）500-3050

営業時間：9:30〜17:30（土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日）

● 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社ニコン・ニコンカメラ販売株式会社

Printed in China
YP7H02(10)
6MA30610-02